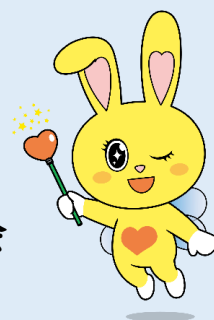


令和5・6年度 地域懇談会報告書

(令和5年10月24日～令和6年11月20日)

令和7年3月

社会福祉法人 大阪市東住吉区社会福祉協議会



目 次

育 和 (令和5年11月22日)	P 2
桑 津 (令和6年6月25日)	P 6
北田辺 (令和6年7月19日)	P 12
今 川 (令和6年10月23日)	P 20
田 辺 (令和5年11月21日)	P 26
南田辺(令和5年11月7日)	P 32
東田辺 (令和6年11月29日)	P 36
南百済 (令和5年10月24日)	P 44
湯 里 (令和6年2月13日)	P 50
鷹 合 (令和6年8月2日)	P 56
矢田北 (令和6年11月20日)	P 64
矢田東 (令和6年1月31日)	P 70
矢田中 (令和5年11月28日)	P 76
矢田西 (令和6年10月29日)	P 84
当日のパワーポイント資料	P 91
参加者の声／活動継続・発展のための3つの要素	P 97
「大阪の社会福祉」第831号 (抜粋)	P 98
「大阪の社会福祉」第832号 (抜粋)	P 100

令和5年度 育和地域懇談会 まとめ

《 地域懇談会の目的 》

地域懇談会は「地域でつながることの重要性」の再確認や地域活動（集いの場や居場所）のさらなる活性化につなげることを目的とし、地域役員の方や活動者のみなさまと共に開催いたしました。

開催日時	令和5年11月22日（水） （午前10時～11時30分）		
開催場所	育和社会福祉会館		
参加者	育和地域 東住吉北包括 白鷺ランチ 区社協	三原会長 河村民生委員長 杉本女性部長 藤田氏（ふれあい喫茶） 新子氏（親子サロン） 田中氏（食事サービス） 上阪サポーター 多湖センター長 中木氏 萩野（地域支援） 郷原（地域支援） 萩野（地域支援） 岡村（体制整備） 前田（体制整備） 森（見守り相談室）	
テーマ	食事サービス、ふれあい喫茶、親子サロン		



集いの場・居場所の重要性とは？

誰もが
孤立しない
地域づくり

つながり
づくり

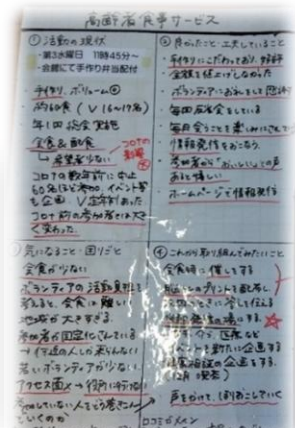
居場所
づくり

（育和）地域懇談会

テーマ：高齢者食事サービス



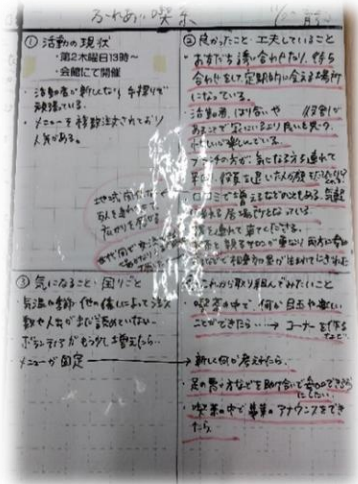
① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第3水曜日 11時45分～開催 ●会館にて手作り弁当配付 ・約60食を作っている（ボランティアや見学者分を含む）。16～17名が役割分担しながら従事している。 ・会食と配食を併用しているが、コロナの影響が大きく、会食希望者はほとんどいない状況。 ・ボランティアの高齢化により、コロナの数年前に活動を休止していた。ボランティアの定年を70歳と定めていたため運営が難しくなった。 ・会食制で開催していた当時は60名の参加があり、会場に入りきれずに廊下や物置スペースも使っていたほどだった。 ・会食時代の参加者も高齢となって大きく入れ替わり、現在の参加者の多くは弁当を取りに行くことが日常となっている。	・手作りにこだわっており好評を得ている。 ・参加者から「美味しい」という声があると嬉しい。 ・物価上昇で材料価格も値上がりしているが、提供金額は値上げをせずに、なんとか頑張っている。 ・参加者は毎月顔を合わせることを楽しみにされている。 ・定年制を撤廃するとともに、女性部にも協力を依頼してボランティア人数を確保した。 ・ボランティアには地区社協からペットボトルのお茶が提供されている。 ・年1回総会を開催し、事業報告を行っている。 ・毎回反省会をしている。 ・ホームページで地域活動の情報発信をしている。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・会食での利用者が少ない。 ・若いボランティアが少ない。 ・会食にするとボランティアの拘束時間が増えて片付けも大変になる。 ・参加者が増え過ぎると大変なので、周知はあまりせず口コミがメイン。参加定員は約40名で、既に一杯になっている。 ・地域が大きすぎる。参加者が固定化されていて、会館付近の人しか来られない。 ・地域には高齢者が約2,000名いるが、集いの場に参加していない人をどう巻き込んでいくかが今後の課題。	・開催時に催しをしたり、参加者全員で楽しめる企画を考えたい。 ・詐欺被害防止や介護、医療など情報発信を行う場にできないか。 ・北地域包括支援センターや区社協と連携し、健康相談や集いの場の紹介等を行っていききたい。 ・集いの場に参加されていない高齢者に声をかけて、参加者を掘り起こしていく。



（育和）地域懇談会

テーマ：ふれあい喫茶



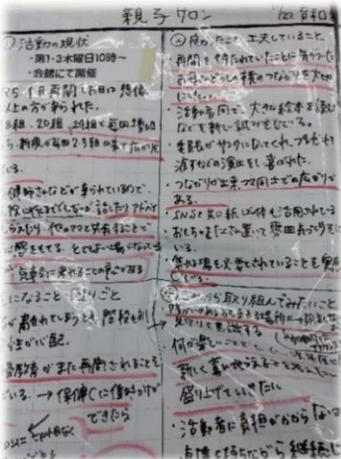
① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第2木曜日13時～15時開催 ●会館にて開催 ・活動者が新しくなり、手探りで頑張っている。 ・複数のメニューを注文される方が多く、人気がある。 	・友人同士誘い合わせたり、待ち合わせをして定期的に会える場所になっている。 ・活動者は張り合いや役割があることで、家にいるより良いと思う。忙しいが楽しんでいる。 ・ランチの方が気になる方を連れてきたり、役員を退いた方が顔を出したりしてくれる。 ・ロコミで増えることもある。 ・気軽に来られる場所になっている。 ・地域に関係なく友人を連れて来られる方もおられ、活動に広がりを感じた。 ・孫を連れて来られる方もおられ、世代間交流の場にもなり得る可能性を感じた。 ・喫茶と親子サロンの開催日が重なった日があったが、両方に参加する方もおられ、相乗効果が生まれて賑わった。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・気温や季節、他の催しによって注文数や参加人数にばらつきがあり、まだ予測できていない。 ・ボランティアの人数がもう少し増えたらいいなと思う。 ・メニューが固定化している。 	・喫茶の中で何か楽しい企画を考えたい。 →コーナーを作るなどしてみる。 ・メニューについて新しく何か考えたい。 ・足の悪い方などを助け合いで参加できるようにしたい。 ・喫茶の中で事業のアナウンスができればいいなと思う。 



（育和）地域懇談会

テーマ：親子サロン



① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第1・3木曜日10時～11時30分開催 ●会館にて開催 ・再開した令和5年1月は想像以上の方が来られた。18組、20組、24組と毎回参加者が増加した。 ・毎回2、3組は新規が来られて広がりを感じる。 ・保健師や歯科医師などが来られているので、病院に行くまでもないことを話したり、アドバイスをもらえたり、他の保護者と共有することで安心感を持てる、良い場になっている。 ・歯科医師は近所の方であり顔見知りなので、敷居が低く話しやすい。 →子育ては孤立しがちになるが、この場があることでつながれる。子育て中の保護者達が安心感を得られる場所になっている。 また、気軽に来られることの良さがある。	・再開を待たれていたことに気がついた。 ・保護者同士の横のつながりを大切にしたい。 ・活動者間で大きな絵本を読むなど新しい試みをしている。 ・民生委員長がサンタになって、プレゼントを渡すなどの演出をして喜ばれた。 ・つながりができ保護者同士での広がりがある。 ・SNSと共に紙媒体も活用している。 ・おもちゃをたくさん置いて、雰囲気づくりをしている。 ・集まる場を必要とされていることを実感している。 
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・参加者が多い時は1階と2階を使用し、年齢で会場を分けた。兄妹がいると親子が離れてしまう。階段もあり安全面が心配。 →見守りを意識する。 ・妊婦教室が再開されることを望んでいるので、保健センターに働きかけてほしい。 →親子サロンに切れ目なくつなげることができ。 	・障がいのある方も来られる場所にする。 →孤立しないように、効率的なアナウンスをしたい。 ・次年度に向けて、新しく喜んでもらえることを考え、盛り上げていきたい。 ・活動者に負担がかからないよう横の連携を持ちながら継続していきたい。 

令和6年度 桑津地域懇談会 まとめ

《 地域懇談会の目的 》

地域懇談会は「地域でつながることの重要性」の再確認や地域活動（集いの場や居場所）のさらなる活性化につなげることを目的とし、地域役員の方や活動者のみなさまと共に開催いたしました。

開催日時	令和6年6月25日（火） （午後1時30分～3時30分）	
開催場所	桑津会館	
参加者	桑津地域	辻本会長 岩崎女性部長 村上民生委員長 桐本氏（食事サービス委員長） 住田氏（食事サービス副委員長） 中川氏（ふれあい喫茶代表） 藤原氏（親子サロン） 日野氏（親子サロン） 石橋氏（こどもの居場所サンフラワー） 西本サポーター
	東住吉北包括	多湖センター長 瀬尾氏
	区社協	佐藤（事務局長） 荻野・郷原・岩永（地域支援） 岡村・前田（体制整備） 矢野（見守り相談室）
テーマ	食事サービス、くわあS” 元気アップ教室、ふれあい喫茶、親子サロン、こどもの居場所サンフラワー	



集いの場・居場所の重要性とは？

誰もが
孤立しない
地域づくり

つながり
づくり

居場所
づくり

（桑津）地域懇談会

テーマ：高齢者食事サービス



① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第1火・水曜日12時頃～開催 ※開催日変更の場合あり ・コロナ禍以降、足腰が弱ってきている方がおられ、少し参加者が減った。 ・以前は1回120食提供していたが、コロナ禍以降は約60食で実施している。 ・厨房を担う食事サービス委員8名のほか、当日ボランティアが5～6名いる。 ・参加人数が多いため、地域を北部と南部に分けて月2回開催しているが前日準備を含めると4日間活動している。 	・準備・片付けを含めて、以前は9時～17時までかかっていたが、食器洗い乾燥機を導入するなどの工夫で時間短縮ができ、ボランティアの負担軽減につながった。 ・ボランティアで活躍していた方が、引き続き参加者として来られている。陰ながら応援してくれていることがとても嬉しい。 ・季節に応じた手作りメニューを提供し、参加動機にもつながっている。 メニューは参加者が「家でも作ってみよう」と参考になるものも多い。 ・長くボランティアとして活動していると知り合いも増え、「表情が明るくなったね」と言われるようになった。それがやりがいやモチベーションにつながっている。 ・当日ボランティアは各町会の女性部が持ち回りで担当しており、地域全体で食事サービスを応援する空気感がある。 ・地域や行政、関係機関からの情報が得られる場所である。関係機関と参加者が顔見知りになるので気軽に相談できることが安心につながっている。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・食事サービス以外の活動も兼務しているので、ボランティアは大変である。 ・軸になる委員さんが増えず、募集が難しい。 	・令和6年度から新体制になったので、ボランティアみんなで助け合い、和気あいあいとした雰囲気になってきている。このまま継続していきたい。 



(桑津) 地域懇談会

テーマ：くわあS”元気アップ教室

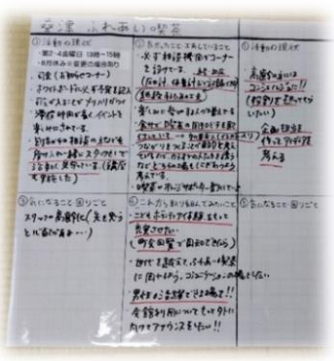
① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第1金曜日 ① 13時30分～14時15分開催 ② 14時30分～15時15分開催 ・コロナ前は13時30分～15時(90分間)だったが、一度に70名も集まっていた。このため、現在では地域を北と南に分けて45分ずつ開催することで参加者の分散を図っている。 ・年間のプログラムは、区保健師と検討して決定している。 ・回覧板やロコミで周知している。 ・「桑津の体操を作ろう」と独自の体操を作った。会の冒頭ではボランティアが前に出て、参加者全員で歌いながら身体を動かすことで、準備運動として活用している。 	・コロナ禍以降、開催時間が45分間になった。参加者の集中力が持続し、無理なく参加できる時間設定となり、ちょうど良かったと思う。 ・参加者は元気な方が多いが、いろいろな人が気軽に参加できるように、椅子に座ってできる体操を工夫して行っている。 ・毎月いろいろなところから情報を集めて、間違い探しをはじめとした脳トレプリントを作成し、参加者に持って帰ってもらっている。 ・毎回続けて参加してくれていると、参加者の状態変化に気づき、見守りや安否確認につながっている。 ・独居の方に声掛けをして参加を促してくれる方がいるので、閉じこもり予防につながっている。 ・同じ講師の方が来られても、毎回異なるプログラムが提供されている。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・会館に行くのは敷居が高いという方もおられる。 ・1回参加したら、ずっと行かないといけなと思っていらっしゃる方もおられる。 ・後半の参加者が少なく、10名程度しかいない時もある。(理想は各回20名) 	・運営面ではボランティア同士の仲も良く、今が一番うまくいっていると感じているので、このまま続けてやっていきたい。 ・後半の参加者がもっと増えるようにロコミや周知も必要。 



（桑津）地域懇談会

テーマ：ふれあい喫茶



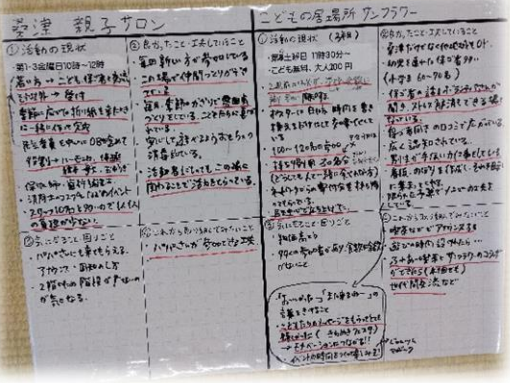
① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第2・4金曜日13時～15時開催 ※8月休み。変更の場合あり。 ・毎回イベントを企画しており、司会が入ること で場のメリハリが出ている。 ・相談機関がコーナーを設け、誰もが気軽に相談 できるようにしていることも参加継続につな がっている。 ・包括から紹介された方を受け入れ、一緒にボラ ンティアとして活動する中で見守りを続けて いる。 ・ボランティアが講座で学び、喫茶として「オレ ンジサポーター」の登録をした。認知症の方で も安心して来ていただける場にしている。 	・毎回イベントがあるため、楽しみに参加される方 が増えており、滞在時間も長くなった。 企画担当でアイデアを出し合って、次も来たくな るようなテーマを考えている。 ・会館のホワイトボードに次回の予定を記入し、イ ラストをつけて華やかに装飾するなど周知に力を 入れ、参加者に開催を楽しみにしてもらっている。 ・喫茶のイラスト入り周知ビラを作成し、食事サー ビスで配布している。 →参加者増加に効果があった。 ・「つながりづくり」が目的なので会館を利用する他 の活動のグループの方にも周知し、どちらの場も 賑わうように場と場をつないでいる。 ・午前中から準備し、ボランティアみんなで昼食を 取って午後の実施に臨んでいる。一緒に過ごすこ とで絆が深まっている。 
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・ボランティアの高齢化 (先を思うと心配がある…) 	・夏に開催している「こどもボランティア体験」を、 もっと充実させたい。(町会回覧で周知できたら) ・世代を越えてふれあい喫茶に関われるよう、多世 代のコミュニケーションの場としたい。 ・男性が活躍できる場にもしていきたい。 ・会館利用について、もっと外に向けてアナウンス をしたい！！ ・ボランティアを引退された方にもずっと関わって いただくため、1人で来られた方の話し相手にな っていただくなど、コンシェルジュ(案内役) という役割を担ってもらいたい。



（桑津）地域懇談会

テーマ：親子サロン



① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第1・3金曜日10時～12時開催 ・0～3歳までのこどもと保護者、約20組が参加されている。 ・若いボランティアはこどもや保護者と交流し、それ以外のボランティアは受付を担うなど、役割分担をしている。 ・民生委員のOBもボランティアとして活動している。 ・ボランティアは10名と多いので、無理なく活動ができています。 ・2ヶ月に1回程度、季節に応じた折り紙を参加者と一緒に作っている。 	・毎回新しい方が来られて参加者が増加してきており、保護者の仲間づくりにもつながっている。 ・毎月、季節の飾り付けをすることがサロンを楽しんでもらえる雰囲気づくりにもつながっており、こどもたちにも喜ばれている。 ・安心して遊べるよう、毎回最初と最後にはすべてのおもちゃの消毒をしている。 ・折り紙やハーモニカの演奏、絵本の朗読、お遊戯など、ボランティアが得意なことを活かせるような場面を作っている。 →参加者が楽しむだけではなく、ボランティアも元気になる場所であることを大切にしている。 ・日ごろ、おばあちゃんと過ごすこどもが減っているからか、こどもたちがボランティアにとっても懐いてくれている。 ・区保健師や歯科衛生士の指導があり、参加者の安心感にもつながっている。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・お父さんにも来てもらえるようなアナウンスや周知の仕方について考えていく必要がある。 ・こどもに怪我をさせないように細心の注意を払っているが、2階で開催しているため、階段が危ないのが気になる。 	・お父さんが気軽に参加できる工夫ができればいいな。 ・以前は消防士のコスプレなどのイベントも行っていたが、コロナ禍以後に休止したので、再開につなげられたら。 



(桑津) 地域懇談会

テーマ：こどもの居場所サンフラワー



① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第4土曜日 11時30分～開催 ●こども無料、大人200円 ・毎月100～120名の参加がある。 ・幼児を連れた保護者の参加が多い。 ・学校の協力体制があり、小学生は60～70名参加している。 ・民生委員が中心となって立ち上げた活動で、男性も力仕事を手伝っている。 ・市社協地域こども支援ネットワーク事業からの寄付物品を持ち帰ってもらっている。 ・持ち帰り用として30名分を用意し、どうしても他の人と一緒に食べられない方に対応している。 (7・8・1月は持ち帰り分の用意はなし) 	・開催2週間前には必ず、学校と会館に2枚ずつポスターを貼って早めに周知、情報発信をきっちり行っている。 ・ポスターは日にちと時間を書き換えるだけにして、作成作業を効率化している。 ・看板やのぼりを作成し、それを目印に参加者が集まってくれている。 ・他地域からの参加も受け入れており、保護者同士の口コミで広く活動が認知されている。 ・保護者の話をボランティアさんが聴いてくれるので、ストレス解消の場にもなっている。 ・「美味しかった」「また来るね」の言葉を聞けることがボランティアのやりがいになっている。 ・こどもたちからのメッセージをもらえると、とても嬉しく、モチベーションにつながっている。 ・「じゃんけんマジック」などのイベントの時間をつくって楽しみを作っている。 ・限られた予算でいかに喜ばれるメニューにするかの工夫をしている。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・物価高騰による食材の確保の難しさがある。 ・多くの参加者があり嬉しい反面、用意できる食数に余裕がない。 	・喫茶などでアナウンスし、場と場をつなぐようなことができたらいいな。 ・食事を提供するだけではなく、遊びの時間などを新しく設けられたらよい。 ・ふれあい喫茶とサンフラワーで世代交流などのコラボができれば。(年1回でも) 



令和6年度 北田辺地域懇談会 まとめ

《 地域懇談会の目的 》

地域懇談会は「地域でつながることの重要性」の再確認や地域活動（集いの場や居場所）のさらなる活性化につなげることを目的とし、地域役員の方や活動者のみなさまと共に開催いたしました。

開催日時	令和6年7月19日（金） （午前10時～正午）	
開催場所	友愛センター北田辺	
参加者	北田辺地域 区社協	山崎会長 橋本女性部長 今西民生委員長 駒井民生副委員長 岡野氏（食事サービス） 割石氏（ふれあい喫茶） 川本氏（ふれあい喫茶） 松井氏（親子サロン） 内山氏（百歳体操、親子サロン） 芝サポーター（つながり・百歳体操） 佐藤（事務局長） 荻野（地域支援） 岡村（体制整備） 土元（体制整備） 矢野（見守り相談室） 高畑（見守り相談室） 濱辺（地域包括） 横山（地域包括）  
テーマ	食事サービス、ふれあい喫茶、親子サロン、つながり、百歳体操、ラジオ体操	



集いの場・居場所の重要性とは？

誰もが
孤立しない
地域づくり

つながり
づくり

居場所
づくり

(北田辺) 地域懇談会

テーマ：高齢者食事サービス



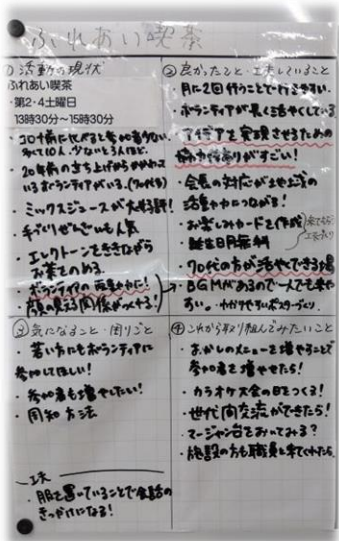
①活動の現状	②良かったこと、工夫していること
●第4金曜日12時頃～開催 ※12月は第3金曜日 ・コロナ禍の期間は配食形式で2拠点（北田辺会館・友愛センター）で実施していたが、令和6年4月から会食形式に戻し、感染対策として、向かい合うことのないように長机に一方向で着席するスタイルにしている。（コロナ前は一つの机に6人掛けで着席） ・2会館のうち北田辺会館のみ実施されている。 ・現在参加者は約30名（コロナ前は約60名） ・参加者の対象年齢を70歳以上としている。	・一人ひとりに挨拶・声掛けをし、顔の見える関係づくりができています。月1回顔を合わせることで、定期的に様子を確認でき、見守りの場と、情報提供の場となっている。 ・参加者からの「おいしかったよ」「ありがとう」の声がスタッフのやりがいにつながっている。 ・個別の声掛け（町会長など）で参加につながっている。（コロナ禍以前は、会館から遠い南エリアの人も参加できるよう、町会長が南エリアの人約10名を送迎していた） ・町会長が力仕事の設営や片付けを当番制で担当してくれており、とても助かっている。 食事サービスを地域全体で担うという意識を持っている。 ・夫婦の参加がOKとなり、参加者の幅が広がった。
③気になること、困りごと	④これから取り組んでみたいこと
・ポスター等で会食の再開を周知しているが、参加人数が戻らない。人数が元に戻ると、密になりすぎてしまう心配もある。 ・一拠点（北田辺会館）になり、遠くて行きづらいエリアの人が多くいる。 ・2拠点も考えるが友愛センターの厨房が狭いため難しい。 ・中には会食に抵抗感を持つ人もいる。	・対面式の配置に戻したい。 ・南エリアの人も参加できるよう、町会長の送迎を再開させたい。また、他にも送迎ができる方がいるため、参加者は友愛センターに集まり北田辺会館まで車で向かうスタイルも検討している。 ・引き続き町会長から参加の声掛けをお願いしたい。



（北田辺）地域懇談会

テーマ：ふれあい喫茶



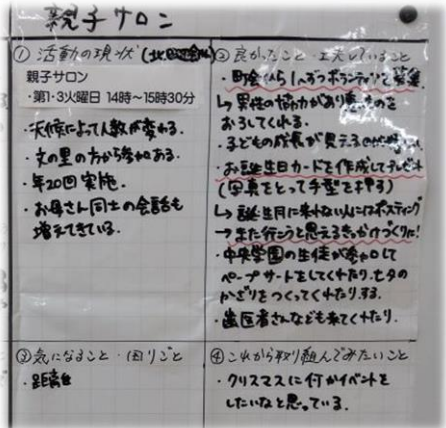
①活動の現状	②良かったこと、工夫していること
●第2・4土曜日 13時30分～15時30分開催 ・コロナ前に比べると参加者が減っている。 ・ミックスジュースや手作りぜんざいが好評である。 ・ポスター掲示で喫茶の情報発信をしている。 	・町会長のエレクトーン生演奏などで一人で参加しても居心地の良い雰囲気づくりを心掛けている。 ・お楽しみカードを作成したり、お誕生日月は無料にするなど、また来なくなる工夫をし、参加者に喜んでもらっている。 ・月に2回あるのでボランティアも参加者も、喫茶を中心に、ひと月の中で生活のリズムができる。 ・20年前の立ち上げ当初から長く関わっているベテランボランティアがいることが強みである。 ・70歳代のボランティアの方々が活躍できる場になっており、やりがいを持って活動している。 ・服のリサイクルコーナーが会館にあるので、参加のきっかけになり楽しみの一つになっている。 ・地域活動協議会会長やその他役員の素早い対応や協力体制が喫茶だけでなく、地域活動全般の活性化にもつながっている。
③気になること、困りごと	④これから取り組んでみたいこと
・スタッフが高齢化しているので少しずつ若い方につなぎ世代交代していけたら。 ・参加者を増やすため、周知方法も考える必要がある。 	・メニューを増やし、選べる楽しみができることで参加者増につなげたい。 ・喫茶の中で、カラオケ大会などのイベントができたらおもしろい。 ・昔遊びなどで世代間交流ができれば。 ・近くの施設入所の高齢者なども来てもらいたい。 ・再度回覧をするなど、周知に力を入れたい。 ・場と場をつなぐために親子サロンでも周知し、多世代交流の場にしたい。 



(北田辺) 地域懇談会

テーマ：親子サロン



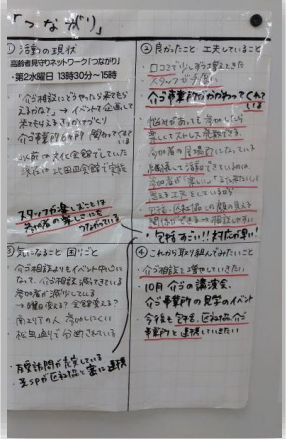
①活動の現状	②良かったこと、工夫していること
●第1・3火曜日14時～15時30分開催 ・天候により人数の変動はあるが参加者は増えている。 ・他区の参加者も受け入れている。 ・月2回、年間20回開催している。 ・区保健師や歯科衛生士の話など、毎月何らかのイベントを行っている。 	・各町会から1名ずつボランティアに参加してもらっており男性も多い。2階からの重い荷物の上げ下ろしなどを手伝ってくれており、地域全体で子育てを応援する体制がある。 ・こどもたちの成長を見られることがとても楽しい。朝、来たときは立てなかったのに、帰りにはつかまり立ちする様子などを見て、保護者と一緒にこどもの成長を喜んでいる。 ・お誕生日カードを作成し、写真と手形を押してプレゼントしている。 →サロンでの記念にもなり、また参加しようと思えるきっかけになる。 ・中央学園高等専修学校の保育科の学生が紙芝居やペープサートなどを披露するなど学びの場として地域と学校が協力し合っている。学生たちとの交流を楽しみにされている参加者も増えている。 ・参加者同士がここで出会い、回数を重ねるたびに会話が増え、打ち解けてつながりができている。保護者のための憩いの場にもなっている。
③気になること、困りごと	④これから取り組んでみたいこと
・地域が広いので、遠くて来られない方もいる。 	・クリスマスにイベントができればいいなと思っている。 



(北田辺) 地域懇談会

テーマ：高齢者見守りネットワーク「つながり」



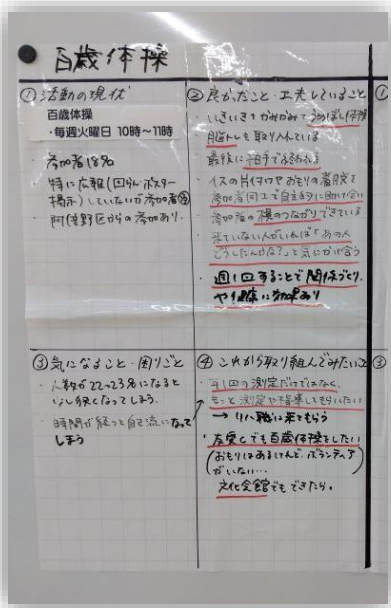
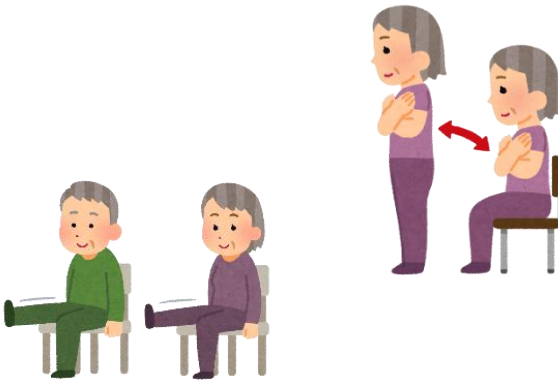
①活動の現状	②良かったこと、工夫していること
●第2水曜日 13時30分～15時開催 ・「つながり」は介護相談からスタートし、相談に来てもらうきっかけづくりとして、さまざまなイベントを企画している。 ・月替わりで北田辺地域の介護事業所6カ所が関わってくれている。 ・以前は北田辺文化会館で行っていたが、現在は北田辺会館で実施している。 	・ロコミで少しずつ参加人数が増えてきている。 ・スタッフの人数が多く、対応が手厚い。 ・「悩みがあっても参加したら楽しくてストレス発散できる」との参加者の声もあった。 ・参加者の居場所になっている。 ・参加者が「楽しい」「また来たい」と思えるような工夫をしていることが、活動の継続につながっている。 ・スタッフと介護事業所・包括・区社協の関係ができてきていることで、気軽に相談しやすい雰囲気がある。 ・スタッフが楽しんで活動することが参加者の楽しさにもつながる。 
③気になること、困りごと	④これから取り組んでみたいこと
・介護相談よりもイベントが中心になっており、介護相談件数が減少してきている。 ・南エリアの高齢者は会館が遠いので、参加しにくい。大きな道路（松虫通）を挟んで分断されている。 	・もっと介護相談を増やしていく。 ・介護事業所の見学などのイベント開催。 ・今後も介護事業所や包括・区社協と連携をしていきたい。 ・曜日を変えるのか？会館を変えるのか？エリアによって参加しにくいところがあるので解消していきたい。 



（北田辺）地域懇談会

テーマ：百歳体操



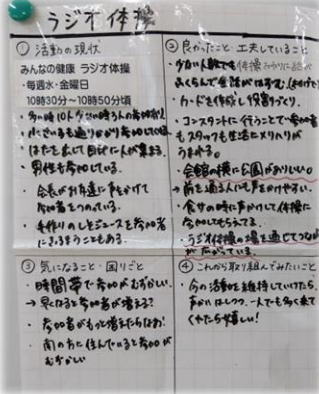
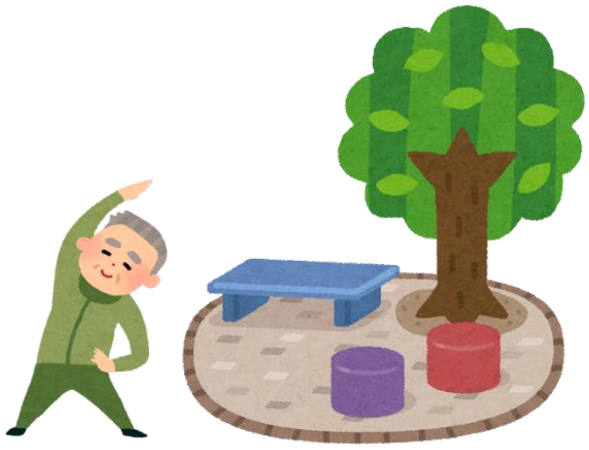
①活動の現状	②良かったこと、工夫していること
●毎週火曜日 10時～11時開催 ※祝日休み ・現在参加者→約20名 ・特に広報（回覧、ポスター掲示等）をしていないが参加者は多い方である。 ・阿倍野区など他区からの参加もある。 	・いきいき体操＋カミカミ体操＋うめぼし体操を実施している。うめぼし体操は歌を唄い声を出す機会にもなっている。 ・合間に脳トレも取り入れながらやっている。 ・最後は全員で拍手をして終わることで、和やかな良い雰囲気になる。 ・イスの片付けやおもりの着脱を参加者同士で自主的に助け合っている。 ・参加者の横のつながりができており、欠席者がいれば「今日はどうしたのかな？」など互いを気に掛け合っている。 ・週に一度実施することで、他者との関係づくりや健康づくりに効果がある。
③気になること、困りごと	④これから取り組んでみたいこと
・今後人数が増えていくと会場が狭くなってしまう新規の方を受け入れられなくなる。 ・慣れてくると百歳体操がどんどん自己流の体操になってしまう。 	・リハビリの専門職には、年1回の測定だけではなく、もっと測定や指導をしてもらいたい。 ・友愛センターでも百歳体操を実施したい。おもりの数はあるが、ボランティアの人数が足りない。 - 文化会館でもできれば尚可。 



（北田辺）地域懇談会

テーマ：みんなの健康 ラジオ体操



①活動の現状	②良かったこと、工夫していること
●毎週水曜日・金曜日 10時30分～10時50分開催 ・通常10名ほどの参加がある。 ・会館の横の公園で開催している。 ・ラジオ体操の前にミニストレッチを行っている。 ・大阪市で初めてラジオ体操の講師資格を取得した元小学校の校長先生が時々参加し、正しいラジオ体操をしてくれる。 	・公園で開催しているので、通りがかりの親子にも声を掛けやすく、新規の方が参加しやすい。 ・午後からの食事サービスの準備をしているボランティアが参加するなど、ラジオ体操を通じたボランティア間のつながりも広がっている。 ・公園には木陰があるので、夏でもラジオ体操が終わってから会話に花が咲いている。 ・参加するごとにカードにスタンプを押している。スタンプが増える楽しみも、また来なくなる工夫の一つである。 ・会長が協力的で、住民に声掛けをしてくれるので、男性の参加もある。 ・夏場はボランティアが手作りした「しそジュース」を参加者にふるまうこともあり、熱中症予防にも配慮している。 ・週2回開催していることで参加者もボランティアも生活のリズムができ、介護予防にもつながっている。
③気になること、困りごと	④これから取り組んでみたいこと
・時間帯や住んでいる場所の都合で、参加が難しい方もいる。 	・今の活動をできるかぎり維持していく。 ・一人でも多く来てくださるよう声かけをもっとしていきたい。 



令和6年度 今川地域懇談会 まとめ

＜＜ 地域懇談会の目的 ＞＞

地域懇談会は「地域でつながることの重要性」の再確認や地域活動（集いの場や居場所）のさらなる活性化につなげることを目的とし、地域役員の方や活動者のみなさまと共に開催いたしました。

開催日時	令和6年10月23日（水） （午前10時～正午）	
開催場所	今川地域振興センター	
参加者	今川地域 区社協	上田会長 内山女性部長 金次氏（ボランティア部部長） 香西氏（ボランティア部会計） 安立氏（ボランティア部総務） 秋山民生委員長 松岡氏（レモンの会代表） 藪本サポーター 佐藤（事務局長） 荻野（地域支援） 郷原（地域支援） 岡村（体制整備） 土元（体制整備） 矢野（見守り相談室） 高畑（見守り相談室） 濱辺（地域包括） 由良（地域包括）
テーマ	食事サービス、今川いきいきの会、ふれあい喫茶、親子サロン	



集いの場・居場所の重要性とは？

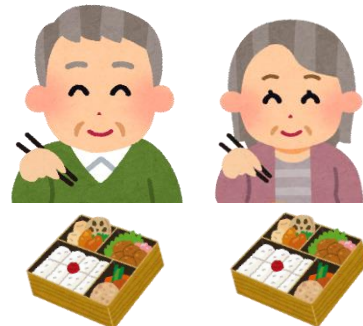
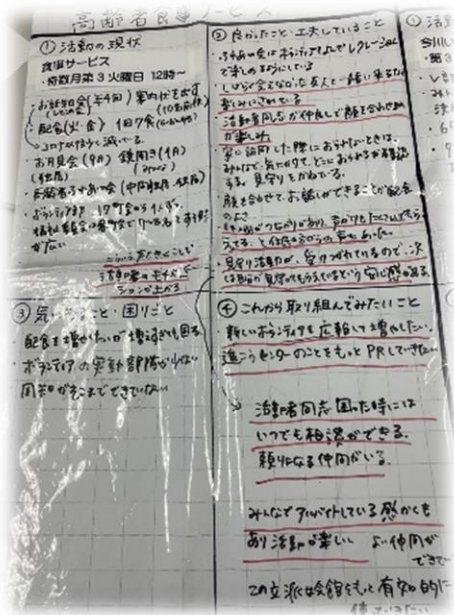


（今川）地域懇談会

テーマ：高齢者食事サービス



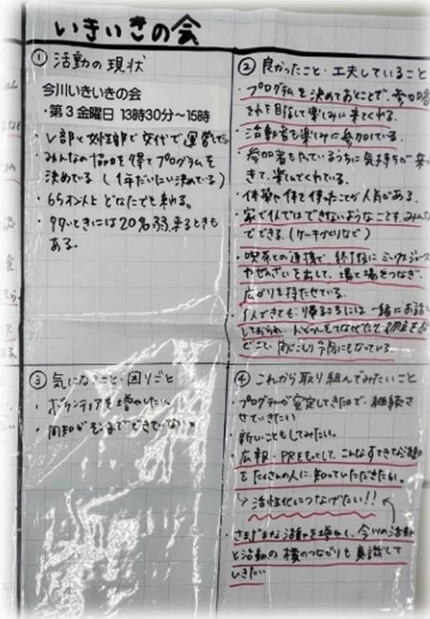
①活動の現状	②良かったこと、工夫していること
●奇数月第3金曜日12時頃～開催 ・お誕生日会を（年4回）開催し、案内状を出してご招待をしている。（10名前後） （レモンの会手作りの松花堂弁当） ・配食（火・金）1回7食（平野区らいおん弁当） お誕生日会、配食ともにコロナ以降参加者が少し減っている。 その他 ・お月見の会（9月開催） ・鏡開き（1月開催） ・ふれあいの会（高齢者の集い、3月開催）	・ふれあいの会は、ボランティアによるレクリエーションで楽しめるようにしている。 ・友人と一緒に参加するなど、楽しみにされている。 ・活動者同士も仲が良く、顔を合わせるのが楽しみになっている。 ・配食のため訪問した際に不在のときは、みんなが気かけ無事を確認する。（見守りを兼ねている。） ・訪問をして顔を合わせて話せるだけでなく、自宅での様子も感じられることが配食による見守りの良さでもある。 ・困ったときにいつでも相談ができ、頼りになる仲間がいることが、活動者のモチベーションにもつながっている。
③気になること、困りごと	④これから取り組んでみたいこと
・もっと配食を増やしたいが、ボランティアの人数に限りがあるため、増えすぎても困る。 ・ボランティアの実働部隊が少ない。 ・周知が充分にできていない。	・広報活動をして新しいボランティアを増やしていきたい。 ・今川地域振興センターのことをもっとPRしていきたい。 ・福祉会館と地域振興センターをもっと有効に活用していきたい。



(今川) 地域懇談会

テーマ：今川いきいきの会

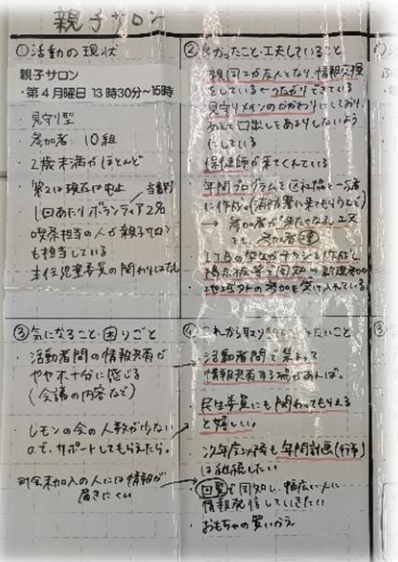


①活動の現状	②良かったこと、工夫していること
●第3金曜日 13時30分～15時開催 ・ボランティア部と女性部が毎月交代で運営をしている。 ・みんなの協力を得てプログラムを決めている。今までは直前にならないと決まらなかったが、現在は1年分を決めて参加者にお知らせしている。 ・65歳以上と誰でも参加可能。 ・多いときには20名弱来ることもある。 	・事前にプログラムを決めておくことで、参加者が予定を立てて参加できる。 ・活動者も楽しみにしている。 ・体操や身体を使ったプログラムが人気がある。 ・ケーキ作りなど、家で一人ではできないようなことがみんなでき。 ・ふれあい喫茶との連携で、終了後にミックスジュースやぜんざいを提供している。活動の場と場をつなぎ、広がりを持たせている。 ・一人で参加していても、帰るころには一緒に話をするなど、参加者同士がつながることで孤立を防ぎ、閉じこもり予防にもなっている。 
③気になること、困りごと	④これから取り組んでみたいこと
・次世代を担うボランティアの人数を増やしたい。 ・周知が充分できていない。 	・プログラムが安定してきたので、継続させていきたい。 ・さまざまなプログラムを増やし、他の活動との横のつながりも意識してやっていきたい。 ・やったことのないことも積極的に取り組んでいきたい。 ・広報・PRをもっとして、活動をたくさんの人に知っていただき、活性化につなげたい。 ・ポスターやチラシをもっと有効に使って、若い世代へアピールをしていく。 

(今川) 地域懇談会

テーマ：親子サロン

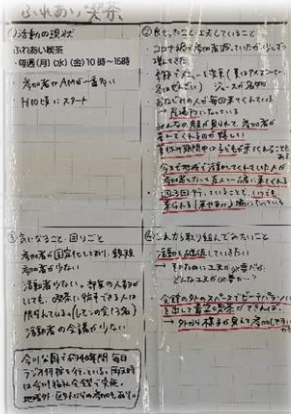
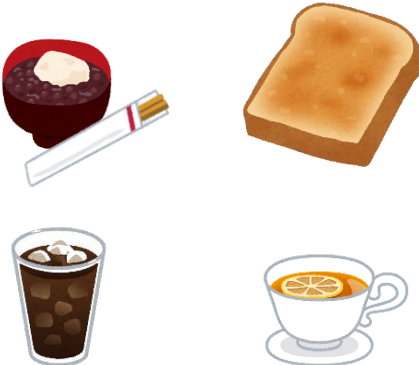


①活動の現状	②良かったこと、工夫していること
●第4月曜日 13時30分～15時開催 ・見守りをメインに活動している。 ・参加者は約10組来られている。 ・2歳未満の参加が多い。 ・1回あたりボランティア2名で対応し、当番制にしている。 ・喫茶担当の活動者が親子サロンも担当している。 ・主任児童委員との関わりはない。 ・地域外の参加も受け入れている。 	・保護者同士が友人となり、情報交換をしている。 →つながりができている。 ・保護者同士が、会話やふれあいに集中できるように、運営側は見守りメインの関わりにしている。 ・保健師が参加しており、アドバイスを受けることができる。 ・消防署に来てもらうなど参加者が「来なくなる」工夫をし、参加者も増えている。 ・ITBの学生がチラシを作成し、掲示板などで周知をしている→新規参加につながっている。 
③気になること、困りごと	④これから取り組んでみたいこと
・会議の内容など活動者同士の情報共有がやや不十分に感じる。 ・レモンの会は13名で活動しており、人が少ないのでサポートしてもらえたら助かる。 ・町会未加入の人には情報が届きにくい。 	・活動者同士で集まって、情報共有する場があれば良いと思う。 ・民生委員にも関わってもらえるとうれしい。 ・年間のプログラムが決まっていると、参加しやすく、前もって予定を立てることができる。 次年度以降も年間計画（行事）の作成は継続していきたい。 ・回覧で周知するなど、幅広い人に情報発信をしていきたい。 ・今使っているおもちゃを買い替えたい。 

(今川) 地域懇談会

テーマ：ふれあい喫茶



①活動の現状	②良かったこと、工夫していること
●毎週（月）（水）（金）10時～15時開催 ・参加者は午前中が多い。 ・平成11年ごろにスタートした。 ・他地域にはない開催スケジュールで立ち寄りやすくなっている。 	・コロナ禍で参加者が減っていたが、少しずつ回復してきている。 ・季節に沿ったメニューにすることで、参加者に喜んでもらえる工夫をしている。（夏はアイスコーヒー、冬はぜんざい）ミックスジュースが名物。 ・おなじみの人がよく来てくれている→参加者にとって良い居場所になっている。 ・参加者同士や活動者の元気な顔が見られることがうれしい。 ・夏休み期間中はこどもが来てくれることもあり、世代間交流の場にもなっている。 ・今まで地域でボランティアとして活動してくれた人が参加者となって、友人と一緒に来てくれている。 ・週3回開催していることでいつでも来られる（来やすい）居場所になっている。
③気になること、困りごと	④これから取り組んでみたいこと
・参加者が固定化しており、新規の参加者が少ない。 ・レモンの会は13名と少なく、ボランティア部員の人数がいても喫茶に従事できる人が限られている。 ・活動者の会議が少なく、情報共有がやや不足している。 	・活動を継続していきたい。そのために必要な工夫を話し合い、考えていきたい。 ・会館の外の駐車・駐輪スペースを使って青空喫茶をやってみたい。 ビーチパラソルを立てて日除けにするなど、屋外で開催することで外部から様子が見えやすく、参加のきっかけとなり、住民が会館を知る良い機会にもなる。 

令和5年度 田辺地域懇談会 まとめ

《 地域懇談会の目的 》

地域懇談会は「地域でつながることの重要性」の再確認や地域活動（集いの場や居場所）のさらなる活性化につなげることを目的とし、地域役員の方や活動者のみなさまと共に開催いたしました。

開催日時	令和5年11月21日（火） （午前10時～11時30分）	
開催場所	田辺会館	
参加者	田辺地域 区社協	前田会長 金谷連合振興町会副会長 松井氏 鍋岡氏（食事サービス） 玉岡サポーター 佐藤（事務局長） 荻野（地域支援） 郷原（地域支援） 新井（地域支援） 岡村（体制整備） 荒井（体制整備） 森（見守り相談室） 濱辺（地域包括） 杉井（地域包括） 甚九（地域包括）
テーマ	食事サービス、ふれあい喫茶、子ども食堂元気亭 青春クラブ（麻雀・カラオケ）、喫茶なんてん	



集いの場・居場所の重要性とは？

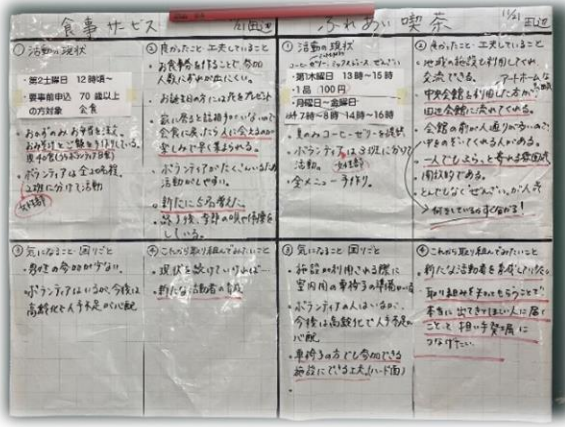
誰もが
孤立しない
地域づくり

つながり
づくり

居場所
づくり



テーマ：高齢者食事サービス

① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第2土曜日 12時頃～開催 ●要事前申込、70歳以上の方が対象 ●会食形式で実施 ・おかずは弁当を発注し、みそ汁とご飯を手作りしている。 ・ボランティアスタッフは女性部のメンバーを中心に約20名ほど在籍しており、2班に分かれて活動している。 現在の参加者は約30名、ボランティアの分を含めて40食を用意している。 	・コロナ禍も食事サービスを会食形式から配食形式に変えて実施するなどの工夫をしながら、つながりを切らないことを意識して活動していた。 ・事前申込制で各町会で取りまとめているので、人数のずれはほとんどない。 ・ボランティアがたくさんいるため活動がしやすい。 ・配食から会食に戻す際に回覧板を活用したことで新規申込者が5名増えた。 ・人に会えることが楽しみで開始時間よりずいぶん早くに集まって談笑している。 ・お誕生日の方々に花をプレゼントし喜ばれている。 ・食後に季節の歌を歌ったり体操するなど、食事以外にも楽しんでもらえるよう工夫している。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・男性の参加者が少ない。 ・現在ボランティアはいるが、今後は高齢化と人手不足が心配である。 	・今後も現状のままで続けていきたい。 ・新たなスタッフやボランティアを発掘し育成していきたい。 



(田辺) 地域懇談会

テーマ：ふれあい喫茶



① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
● 第1木曜日13時～15時開催 ● 1品100円 ・ コーヒー、ミックスジュース、コーヒーゼリー（夏季限定）、ぜんざい（冬季限定）を提供している。 ・ 女性部が3班に分かれて活動している。 ・ メニューは全て手作りで、ぜんざいは前日から小豆を炊いている。 	・ 高齢者だけでなく、地域の施設の利用者やスタッフも参加されるなど、さまざまな人たちの交流の場になっている。 ・ ぜんざいは、手間がかかるが、参加者からの人気が高い。 ・ 一杯目を飲み終えた後も、次のメニューをオーダーして長い時間会話を楽しむ方が多く居場所になっている。 ・ 会館がガラス張りですぐ外から活動の様子が分かりやすいこともあり多くの方が利用してくださっている。 ・ 田辺中央会館を利用した人が田辺会館にそのまま寄ってくださる。 ・ 一人でもふらっと入ってくることができるアットホームな雰囲気があり参加しやすい。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・ 福祉施設の方が利用される際に、室内用の車いすの準備がいる。 ・ ボランティアの高齢化などで、今後人手不足になることが心配である。 	・ 新たな活動者を育成していきたい。 ・ 周知方法などを検討し地域で孤立しがちな方など、本当に出てきてほしい人に情報を届けたり担い手の発掘につなげたい。 ・ 車いすの方でも参加しやすい会館にする工夫（ハード面）を考えたい。 ・ 田辺会館と田辺中央会館の2拠点を上手く活用しながら、居心地よく過ごせる場にしたい。 

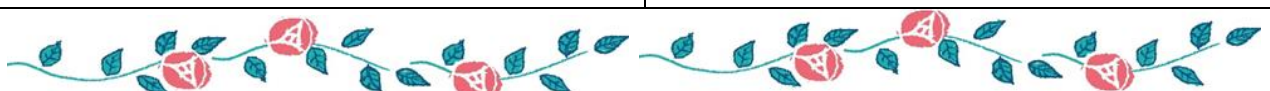


(田辺) 地域懇談会

テーマ：田辺子ども食堂元気亭



① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●毎週月～金曜日 7時～8時、14時～16時開催 ・男性の担い手がシェフをしている。 ・平均は5～6名だが、金曜日は約10名の参加がある。 ・5～6年生が多い。 ・地域の中で担い手を募りつつ、現在はスポーツ推進協議会のメンバーで運営している。 	・こども食堂を毎日開催しており、気になるこどもを見守る仕組みがある。 ・登校はできないが、会館のイベントには参加できるこどもたちの居場所になっている。 ・顔色だけでこどもたちの様子を判断できるぐらいの関係性ができている。 ・こどもたちの喜ぶ顔が活動の原動力となっている。 ・認知度が上がり、寄付してくださる方が増えてきた。 ・学校で元気亭のメニューが話題になることが嬉しい。 ・学校との連携ができている。 ・学校からの依頼で緊急時の対応の連携や受け入れなども行っている。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・田辺地域在住の方に協力してもらえると嬉しい。 	・今後は、放課後の時間を活用して、学びの場の機能も持たせていきたい。 ・さまざま形式を試し、現状に合ったやり方を模索していきたい。 



(田辺) 地域懇談会

テーマ：青春クラブ



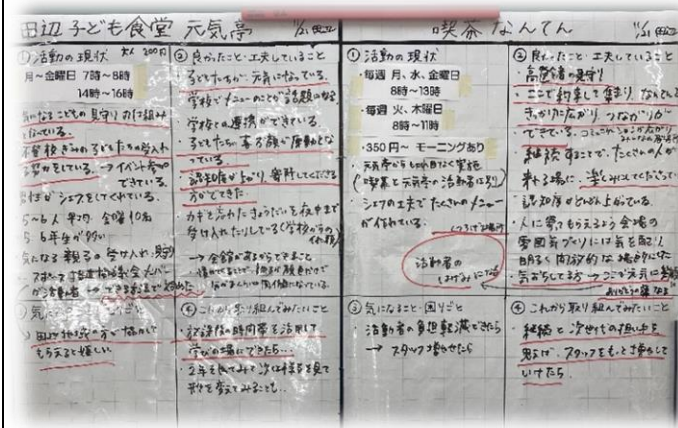
① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
麻雀 ●毎週水・土曜日 10時～16時開催 ●1回500円 ・男性より女性が多く、12～16名が参加。 ・上手な方と、初心者の方がうまく混ざること、勝負が楽しめるように配慮している。 ・「喫茶なんてん」の食事券を配付するなど、この場から異なる集いの場に広がりを持てるようにつなぐことを意識している。 カラオケ ●第2、3、4土曜日の18時～21時 ●1回300円 ・年配の方が多く、家族の送迎の協力もある。 ・約15名の参加者で、1人3～4曲歌う。 ・女性が多く、男性が少ない印象がある。 ・他市から飛び入り参加も受け入れるなど参加がしやすい。	麻雀 ・参加者がありのままで過ごすことができる場づくりを心掛けており、ストレス発散にもなっている。 ・参加者からの「ここで元気をもらえる」といった発言がスタッフの活動の原動力になっている。 ・参加者同士がこの場に慣れてきたことで関係性が深まり、良い雰囲気となっている。 ・初めてでも参加しやすいよう、テーブルのメンバーが固定化されないよう意識している。 ・参加者が気持ちを言い合える場所になっており、思いを吐き出せたことで終了する頃にはやわらかい気持ちになっている。 ・「ここに来たい！」という思いで車いすの方も参加されており、一人ひとりにとっての居場所になっている。 ・電話で参加への声掛けを行っている。 ・活動者として面白さとやりがいを感じている。 カラオケ ・どなたでも、どこからでも参加しやすい雰囲気づくりをしている。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
麻雀 ・活動の現状 ・良かったこと、工夫していること ・気になること、困りごと ・これから取り組んでみたいこと カラオケ ・活動の現状 ・良かったこと、工夫していること ・気になること、困りごと ・これから取り組んでみたいこと	麻雀 ・参加者同士の関係性をより良くしていけるようなきっかけ作りを工夫していきたい。 ・大会なども開催してみたい。 カラオケ ・高齢者が多く、夜遅い帰宅は危ないことから、昼の開催に変更を検討中。 ・参加者全員で歌うなど、1人で楽しむだけでなく違う楽しみ方も提案していきたい。



（田辺）地域懇談会

テーマ：喫茶なんてん



① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●毎週月・水・金曜日8時～13時開催 ●毎週火・木曜日8時～11時開催 ●350円～ モーニングあり 	・シェフの工夫で豊富なメニューがある。 ・参加者の顔を見ることで高齢者の見守りの機能を果たしている。 ・次回の約束をすることで集まりが継続され、つながりが広がっている。 ・地域の方の居場所となり、多くの方がくつろげる空間となっている。 ・認知度がどんどん上がっている。 ・居心地の良い雰囲気づくりに気を配り、明るく開放的な場所になるよう工夫している。 ・元気のない方が、帰る際には笑顔で元気になっている様子を見ると活動者の励みになる。 ・「子ども食堂元気亭」から「喫茶なんてん」まで切れ目がなく、開催時間が長いことから、好きな時間に自由に出入りができ幅広い世代が参加しやすい場となっている。 ・参加者が孤立しないよう、一人ひとりへの配慮を心掛けている。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・田辺地域在住の方に協力してもらえると嬉しい。 ・担い手を増やすことで活動者の負担を軽減できたらとの思いがある。 	・活動者をもっと増やしたい。 ・次世代の担い手へ活動内容や活動者の想いを継承していきたい。 

令和5年度 南田辺地域懇談会 まとめ

《 地域懇談会の目的 》

地域懇談会は「地域でつながることの重要性」の再確認や地域活動（集いの場や居場所）のさらなる活性化につなげることを目的とし、地域役員の方や活動者のみなさまと共に開催いたしました。

開催日時	令和5年11月7日（火） （午前10時～11時30分）	
開催場所	南田辺会館	
参加者	南田辺地域 区社協	伊藤会長（社協） 坂本会長（連合） 前田女性部長 三宅氏（食事サービス） 吉本氏（ふれあい喫茶） 曲田氏（親子サロン） 和田サポーター 佐藤（事務局長） 荻野（地域支援） 郷原（地域支援） 新井（地域支援） 荒井（体制整備） 岡村（体制整備） 森（見守り相談室） 濱辺（地域包括） 由良（地域包括）
テーマ	食事サービス、ふれあい喫茶、親子サロン	



集いの場・居場所の重要性とは？

誰もが
孤立しない
地域づくり

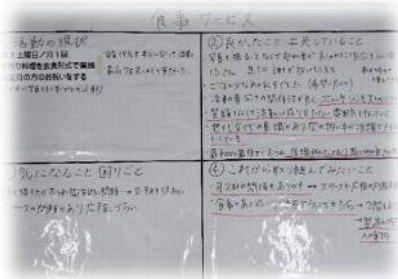
つながり
づくり

居場所
づくり

（南田辺）地域懇談会



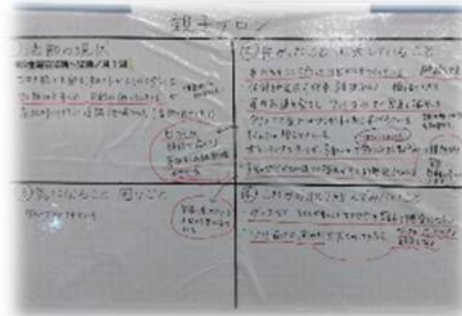
テーマ：高齢者食事サービス

① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第3土曜日12時頃～開催 ・食事は手作りで、会食形式にて実施。 ・食事サービス委員を半分に分けて活動している。 ・最も人数が多いときは78名で実施した。 	・毎月、誕生月の方に花をプレゼントし、その花とともに写真撮影をしている。写真はすぐに印刷し、その場で渡している。誕生月の方は、おしゃれをして気合を入れて来てくれる人が多い。年1回誰もがお祝いしてもらえることで、喜ばれている。 ・参加者の声から「ごはん少なめ」を希望できる札を作成した。 ・男性の参加が少しずつ増えてきた。 ・活動者同士の関係性が良い。コミュニケーションを大切にしながら、活動を行っている。 ・笑顔なくして活動は成り立たないため、良い雰囲気づくりを行っている。 ・世代交代の意識があり、次の担い手が活躍できるようにしている。 ・参加者は長時間滞在され、会話を楽しんでいる。居場所になっており、居心地の良さがある。 ・会館に来られた人には笑顔で帰ってもらうことをモットーにしている。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・食事を持ち帰る人がおり、衛生的に問題があるため、8・9月は休みにしている。 ・これ以上参加者が増えると、会館のスペース的に受入れが難しいため、広報しにくい。 	・より多くの人数を受け入れられるよう、開催回数を月1回から月2回に増やしてみてもどうか。 ・食後ゆっくり過ごしてもらえよう、2階の活用を検討してはどうか。まずは翌週のふれあい喫茶の案内をしたらどうか。 

(南田辺) 地域懇談会

テーマ：親子サロン

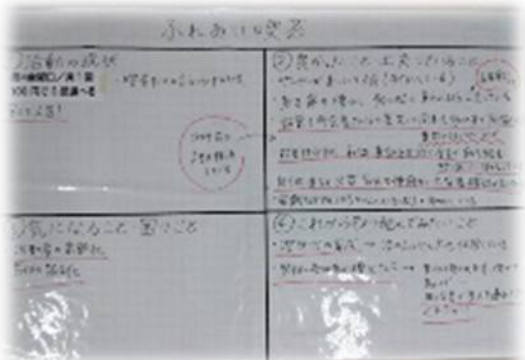


① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第2金曜日10時～12時開催 ・コロナ禍では参加対象の月齢に制限を設けていたが、ようやく制限を外した。 ・約20組参加されている。 ・月齢は低くなってきており、保育所に行くまでのお子さんが多い。 ・立地の良さもあり、南田辺地域だけでなく近隣地域からの参加もある。 ・一時的に実家に戻ってきている親子の参加もある。 	・親子サロンで友人をつくり、新たなつながりができることで、継続参加につながっている。 ・保健師が毎回参加しているため、相談や身長・体重測定ができ、保護者も安心できる。 ・毎月誕生日会を実施している。フォトスペースを設けており、好評である。 ・クリスマス会はプレゼントを用意しており、好評である。 ・健診での周知やロコミ等で参加者が増えてきており、毎回3～4組の新規参加がある。掲示板での周知も効果的である。 ・ボランティアスタッフは、子育てのアドバイスをするのではなく、あたたかい目で見守ることを大事にしており、それが安心して気軽に参加できる場につながっている。 ・子育て世代が地域との接点を持てる場・機会となっている。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・参加メンバーがグループ化（固定化）している。 	・保護者の手を離れる時間を作るため、ダンスなどこどもだけで参加できるプログラムを取り入れてはどうか。 ・ソフト面での関わりを大切にすることで、保護者がホッとできる時間を作りたい。 

(南田辺) 地域懇談会

テーマ：ふれあい喫茶



① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第4金曜日13時～開催（8・9月休み） ・100円で好きな3品を選ぶことができ、参加者からは好評である。 ・ふれあい喫茶のみ手伝ってくれているボランティアがいる。 	・手作りのぜんざいが人気である。 ・少しでも多くの人に来てもらう工夫として、座席を増やしている。飲食後もすぐに帰らず会話を楽しまれ、長時間滞在される方も多い。 ・設営は町会長等が率先して手伝ってくれるなど、多くの人の手で開催している。普段のコミュニケーションが、スムーズな連携につながっている。 ・役割分担を行い、社協や連合を区別せず、地域全体で一体となって取り組んでいる。 ・月1回来ると、必ず会える仲間が居ることで、見守り・安否確認の場にもなっている。 ・参加にあたって年齢等の制限がないことで、誰でも参加できる交流の場となっている。 ・コロナ禍で参加人数が減ったが、現在はコロナ禍以前の人数に戻っている。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・活動者が高齢化してきており、次の担い手を考える必要がある。 ・孤立している男性が多い。 	・次世代の担い手の育成に向け、次の人にぜんざいの作り方を伝授している。 ・男性の参加を増やすために、男性が参加しやすい何かがあればいいと思う。町会長が友人を連れて来てくれたらありがたい。 



令和6年度 東田辺地域懇談会 まとめ

《 地域懇談会の目的 》

地域懇談会は「地域でつながることの重要性」の再確認や地域活動（集いの場や居場所）のさらなる活性化につなげることを目的とし、地域役員の方や活動者のみなさまと共に開催いたしました。

開催日時	令和6年11月29日（金） （午前10時～正午）		
開催場所	東田辺会館		
参加者	東田辺地域	次田会長 奥田女性部長 西川民生委員長 綿谷連合総務部長 野口会長（老人会） 松下氏（ボランティア統括） 福岡氏（ボランティア代表） 森本氏（子どもなかよし食堂） 宮本氏（ふれあい喫茶） 山本氏（親子サロン） 山口氏（ふれあい広場） 太田氏（健康づくり） 吉田サポーター	
	中野包括	神原センター長 隅田氏	
	区社協	佐藤（事務局長） 荻野・郷原（地域支援） 岡村・作江（体制整備） 日和佐（見守り相談室）	
テーマ	食事サービス、ふれあい喫茶、子どもなかよし食堂、親子サロン、ふれあい広場、健康づくり		



集いの場・居場所の重要性とは？

誰もが
孤立しない
地域づくり

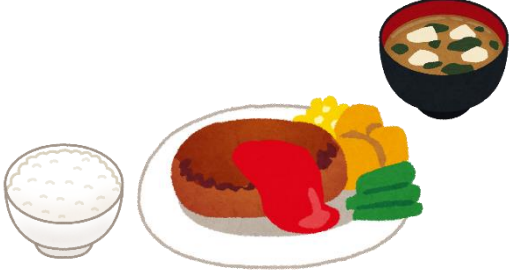
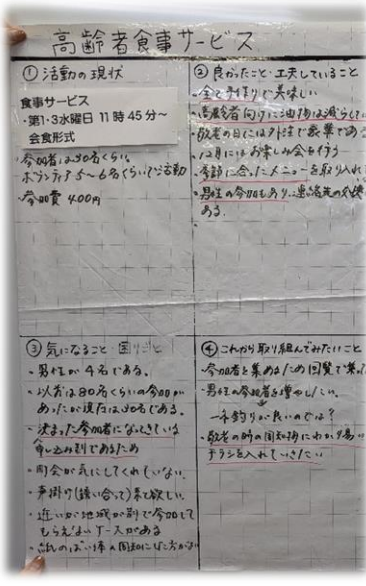
つながり
づくり

居場所
づくり

（東田辺）地域懇談会

テーマ：高齢者食事サービス



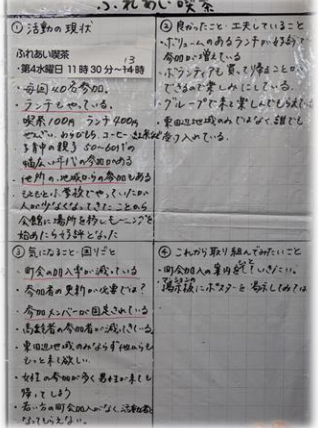
① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第1・3水曜日 11時45分～開催 会食形式 ・参加者は30名程度 ・5～6名のボランティアが活動している。 ・手作りのメニューを提供。 ・以前は女性部が地域で気になる人を食事サービスにお誘いして、来てくれていた。 	・すべて手作りで食事を作っているのも、おいしいと参加者から好評いただいている。 ・季節のメニューを取り入れることで、参加者の皆さんに季節感を感じていただく工夫をしている。 ・高齢者向けに油物を減らすなどの工夫をしている。 ・9月の敬老の日や12月のお楽しみの会などの特別な時には、豪華なお弁当を外注しており、参加者も楽しみにされている。 ・男性参加者は少ないので、1つのテーブルでまわって食事をしてもらうことで男性参加者同士の交流が生まれている。連絡先の交換をするなどして、テーブル内で友人になっていた。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・男性参加者が4名しかおらず、少ない。 ・以前は参加者が80名程度おられたが、現在は30名程度になっている。 ・事前申込制であるため、参加者が固定化している。 ・参加者同士で誘い合って来てほしい。 ・会館の近くにお住まいの方でも、他地域のため参加してもらえないことがある。 	・参加者を集めるために、回覧で周知をしていきたい。 ・男性参加者を増やしていくためにも、1人ひとりに声掛けをしていきたい。 ・敬老の時にお渡しする粗品の中に、分かりやすい参加者募集チラシなどを入れていきたい。 



（東田辺）地域懇談会

テーマ：ふれあい喫茶



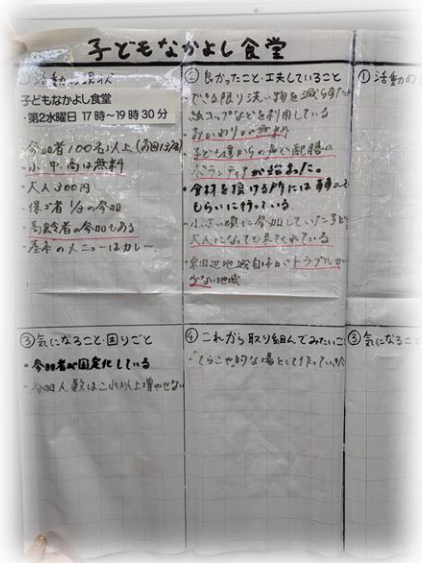
① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第4水曜日 11時30分～13時開催 ・ 毎回、40名程度の参加がある。 ・ ランチも実施している。 ・ ぜんざい、わらび餅、コーヒーが人気で売り切れることが多い。 ・ 子育て中の親子や50代から90代までの参加がある。 ・ 以前は小学校で行っていた。 	・ ボリュームのあるランチが好評で参加者が増えている。 ・ ボランティアも買って帰ることができるので、活動する楽しみの一つになっている。 ・ 友人同士のグループが定期的に集う場となっており、お話などしながら楽しまれている。 ・ 参加者がランチやデザートを食べながらゆっくりおしゃべりをして過ごせる居場所になっている。 ・ 東田辺地域のみならず、他地域からの参加者も受け入れている。 ・ ラジオ体操に来ている参加者のうち数名がボランティアとして活動してくれるようになり、場と場がうまくつながっている。 ・ 喫茶にこどもの参加もあり、他の参加者にとって癒しになっている。また、世代間交流の場にもなっている。 ・ こども連れでも参加しやすい。親はこどもを遊ばせながらゆっくりと食事ができ、リフレッシュできる。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・ 参加者が固定化している。 ・ 女性の参加者が多く、男性が来られてもすぐに帰ってしまうことがある。 	・ 開催の周知をしていくために、回覧やマンションの掲示板を活用していきたい。 ・ 回覧を多くの方に見ていただくためにも、町会に加入してもらえよう工夫していきたい。 



(東田辺) 地域懇談会

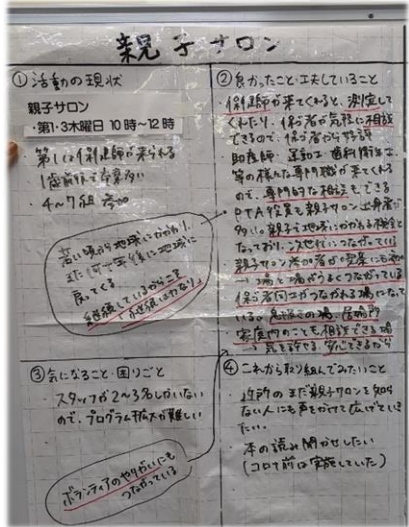
テーマ：子どもなかよし食堂



① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第2水曜日17時～19時30分開催 ・参加者は100名以上で、小学生の参加が最も多い。 ・参加費は高校生以下は無料。大人は300円。 ・参加者の約3分の1が保護者である。 ・高齢者も食べに来てくれている。 ・基本的にメニューはカレーを提供している。 	・おかわり無料！ ・できる限りボランティアの負担を軽減するために紙コップなどの使い捨て容器を利用している。 ・こどもたちから自主的に声があがり、こどもの配膳ボランティアが始まった。 ・食材をいただけるところには積極的に働きかけをおこなっている。 ・地域で育ったこどもが結婚・出産し、親子で活動に参加してくれており、また地域に戻ってきてくれている。 ・家族で来られていることも多く、父親の参加率も高い。 
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・参加者が固定化してきている。 ・現状の参加人数で手一杯のため、参加人数をこれ以上増やすのは難しい。 	・食事提供を続けるだけでなく、こどもたちが宿題や勉強などをすることができるよう、寺子屋のような居場所を作っていきたい。 

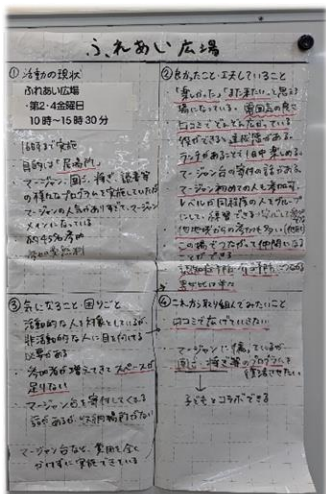




① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第1・3木曜日10時～12時開催 ・第1木曜日は保健師・助産師・歯科衛生士など専門職の参加がある。 ・毎回4～7組の参加がある。  	・産後から1歳前後で卒業される方が多い。 保育所利用までの家で過ごす期間中に参加できる居場所を提供することで、親子の地域でのつながりづくりの一助となっている。 ・月1回専門職の参加があることで、体重測定ができた、月齢によるさまざまな特徴を聞けたり、こどもの成長による悩みの解消や産後の保護者の体調のことも含め、気軽に相談できる場となっている。 ・親子サロンに参加していた保護者がPTA役員を担う流れもある。この場で地域コミュニティに関わることに慣れているため、次世代の担い手としてもつながりやすいように感じる。 ・こどもたちや保護者同士をボランティアが上手につないでいるので、安心して参加できる環境がある。 ・親子サロンがあることで保護者の息抜きができた、何気ない世間話や相談がボランティアとの信頼関係につながっている。また、そのことがボランティアのやりがいにもなっている。 ・「親子サロン」をきっかけに「ふれあい喫茶」にも参加するなど、活動の場と場を上手くつなげている。参加者にとっても新たな居場所と楽しみが増える。 ・小学生の時から知っているこどもたちが保護者となって親子サロンで再会を果たすなど、ボランティアを長く継続しているからこそその喜びや楽しみがある。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・数名のスタッフで活動を維持しており、安定した活動ができる反面、プログラムの拡大や継承が難しい。 	・コロナ前に実施していた本の読み聞かせなどの時間を作りたい。 ・子育て中の親子サロンが必要な方々に向け、もっと情報が届くように周知をしたい。





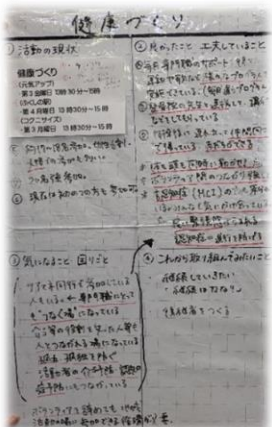
① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第2・4金曜日10時～15時30分開催 ・毎回45名前後の参加がある。 ・15時30分が終了時間であるが、気が付けば毎回延長になるほど楽しんでいる。 ・目的は「みんなの居場所」、その意識をもって運営している。 ・当初は麻雀・囲碁・将棋・読書などさまざまなプログラムを実施していたが、麻雀の人気の高かったことで、現在は麻雀のみの実施となっている。 ・男性の地域参加の促進につなげるべく開始したが、現在は男女問わず多くの参加がある。 ・麻雀卓などは全て寄附で成り立っており、ふれあい広場に参加されていない地域の方も協力してくれている。	・「楽しかった」「また来たい」と思える雰囲気の良さがある。その思いや気持ちが場の発展と継続につながっている。 ・ロコミで新規の方が増えているのは参加者が良い場所だと思えているから。理想的な広がり方になっている。 ・麻雀を介してつながりができたり、「役」での達成感を味わうことができるところが魅力である。 ・ランチの提供をしているので、独居の方が1人で食事することなく、1日中みんなて過ごし楽しむことができる。 ・麻雀が初めての方も丁寧に教えてもらえる。レベルが同じ人をグループにし安心して参加できるよう配慮している。 ・麻雀をツールにつながりができ自然に仲間づくりができています。 ・勝敗での良い緊張感やたくさんの会話で、認知症予防や介護予防にもつながっている。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・活動的な人を対象としているが、活動的ではない人にも目を向ける必要がある。 ・麻雀台などの寄附があっても、並べたり保管するスペースが足りない。 	・現在は人気の麻雀だけの場になっているが、開始当時のように囲碁や将棋などのプログラムを復活させたい。 ・参加者によるロコミで確実に広がればと思う。 



（東田辺）地域懇談会

テーマ：健康づくり



① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●（元気アップ） 第3金曜日 13時30分～15時開催 （ふくしの駅：ほっこりカフェ） 第4月曜日 10時30分～12時開催 （ふくしの駅：百歳体操） 第4月曜日 13時30分～15時開催 （コグニサイズ） 第3月曜日 13時30分～15時開催 ・フレイル予防の意識が高く、身体を動かすプログラムは人気がある。 ・参加者は20名弱で夫婦での参加も多い。 ・初めての方も参加できる。 	・専門職のサポートで、運動や歌など毎月さまざまなプログラムを実施しており、参加者に喜ばれている。 ・地域貢献をされている接骨院との連携で、本格的な健康講座を実施しており、参加者の満足度は高い。 ・どの健康づくりの場も終了後には連れだって帰宅されるなど、顔見知りになるだけでなく、仲間づくりができています。 ・身体と頭を同時に動かし、体力維持と認知症予防になることが実感できるので、多くの方が継続して参加されている。 ・関わるボランティア同士のつながりも強く「自分のためにもなる」とやりがいを感じて活動しており、場に活気がある。 ・認知症（MCI）の方がケアマネ同行で参加されており、専門職にとっても「地域につなぐ場所」になっている。 たくさんの人に交じって良い緊張感を持つことで認知症の進行を防げる。 ・長年の介護が終わり喪失感を持った方などが、孤立したり引きこもって孤独感を感じないよう、この場につなぐようにしている。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・高齢になりボランティアをやめた後は、参加者として参加し、つながりが途切れない循環が必要だと思う。 	・これからも安定的に継続していきたい。 ・次を担う後継者にもつないでいきたい。 



令和5年度 南百済地域懇談会 まとめ

《 地域懇談会の目的 》

地域懇談会は「地域でつながることの重要性」の再確認や地域活動（集いの場や居場所）のさらなる活性化につなげることを目的とし、地域役員の方や活動者のみなさまと共に開催いたしました。

開催日時	令和5年10月24日（火） （午前10時～11時30分）	
開催場所	南百済会館	
参加者	南百済地域 中野包括 区社協	西田会長 房本会長（連合） 栗野委員長 高城女性部長 澤田氏（ふれあい喫茶） 池田氏（食事サービス） 竹本氏（親子サロン） 大東サポーター 岡田センター長 籠瀬氏 佐藤（事務局長） 荻野（地域支援） 郷原（地域支援） 松尾（地域支援） 岡村（体制整備） 作江（体制整備） 森（見守り相談室）
テーマ	食事サービス、ふれあい喫茶、ラジオ体操、 南百ふれあい食堂、親子サロン	



集いの場・居場所の重要性とは？

誰もが
孤立しない
地域づくり

つながり
づくり

居場所
づくり

(南百済) 地域懇談会

テーマ：高齢者食事サービス

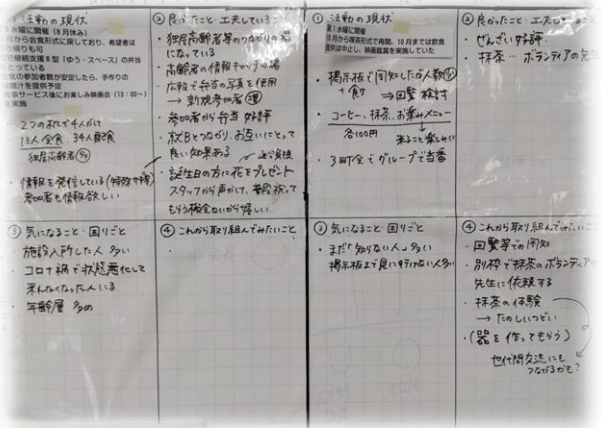


① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第3水曜日 11時30分～開催 (8月休み) ・10月から会食形式に戻しており、希望者は持ち帰りも可能。 ・就労継続支援B型「ゆう・スペース」の弁当をお願いしている。 ・会食の参加者数が安定したら、手作りの味噌汁を提供予定。 ・食後にお楽しみ映画会(13時～)を実施している。 ・2つの机で4人がけにすることで、ゆったりとした配置としている。 ・10月は13名が会食、34名が持ち帰られた。 ・独居高齢者の割合が多い。	・独居高齢者等のつながりの場になっている。 ・高齢者の情報をキャッチの場。 ・毎年発行している連合の広報誌に、お弁当の写真を掲載。 →新規参加者の増加に繋がった。 ・参加者からお弁当が好評。 ・就労継続支援B型とつながり、お互いにとって良い効果がある。 ・連合が負担して誕生日の方にお花をプレゼントしている。高齢になり、誕生日を祝ってもらう機会が減少している方もおられるため喜んでいただいている。 ・情報発信(特殊詐欺など)を行っており、情報を求めている参加者も多い。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・コロナ禍で施設に入所された方が多い。 ・コロナ禍で身体の調子が悪化して、参加することが難しくなった方もいる。 ・年齢の高い方が多くおられる。 	

（南百済）地域懇談会

テーマ：ふれあい喫茶

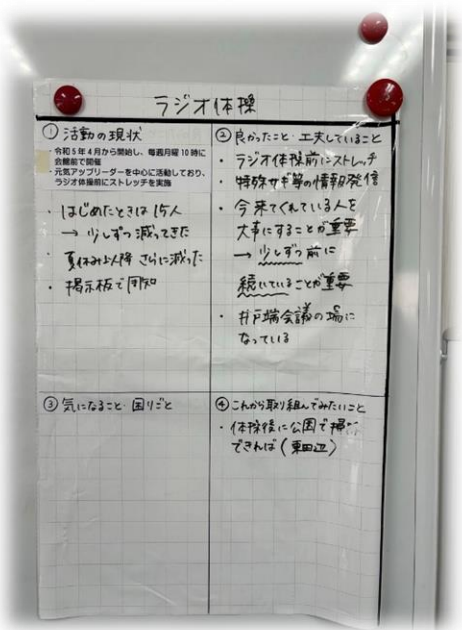
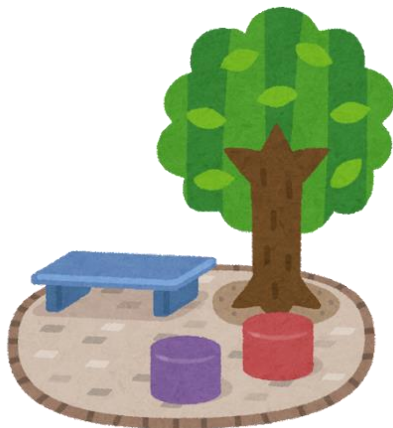


① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第1水曜日 13時30分～15時30分開催 ・10月から喫茶形式で再開した。 ・10月まで飲食提供は中止し、映画鑑賞を実施していた。 ・掲示板と食事サービスで周知を行なったが、参加者は少なかった。 ・コーヒー、抹茶、ぜんざい、お楽しみメニューを各100円で提供している。 ・お楽しみメニューでは、毎月様々に月替わりメニューを用意しており、参加することへの楽しみに繋げている。 ・3町会で1つのグループとなり、当番制で回している。	・ぜんざいが好評。 ・ボランティアでお茶の先生に来ていただいている。 
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・まだ喫茶の再開を知らない方が多い。 ・掲示板まで情報を見に行くことができない方もおられる。 	・回覧板での周知をしていく。 ・別枠で抹茶ボランティアの先生に抹茶体験の講師の依頼を検討する。 ・抹茶体験を「たのしいつどい」の枠に入れて、参加者に体験してもらう。親子サロンや子ども食堂などで行えば世代間交流にもつながる。 

（南百済）地域懇談会

テーマ：ラジオ体操

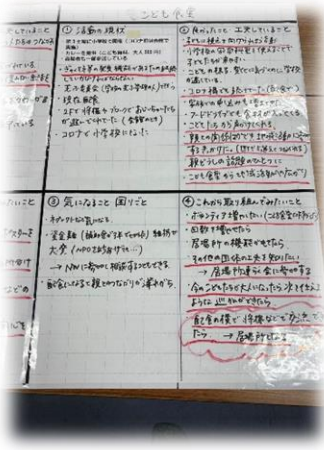


① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●毎週月曜日 10時～12時開催 ・令和5年4月から開始。 ・元気アップリーダーを中心に活動しており、ラジオ体操前にストレッチを実施。 ・掲示板で周知している。 ・会館の前で実施している。 	・ラジオ体操前にストレッチを行っている ・特殊詐欺などの情報発信をしている。 ・現在参加されている方を大事にすることが重要。→少しずつ前に続いていることが重要。 ・参加者の声を大事にする。 ・井戸端会議の場になっている。 
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・開始当初は15名程度の参加者が集まっていたが少しずつ減ってきた。 ・夏休み以降さらに参加者が減少した。 →現在は3～5名程度。 	・今後、ラジオ体操を公園で行うようになった際は、公園の清掃もしたい。 

（南百済）地域懇談会



テーマ：南百ふれあい食堂

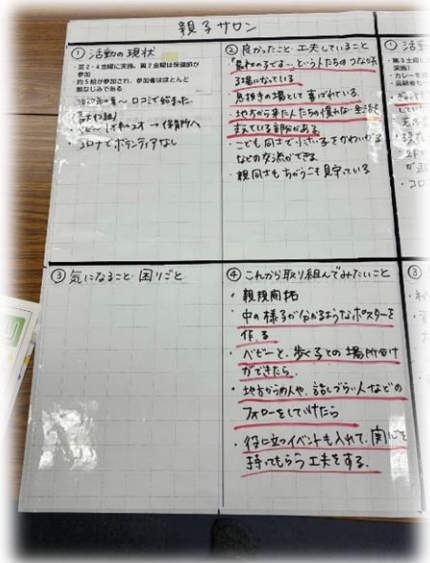
① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第3土曜日12時～小学校で開催 （コロナ前は会館で実施） ●カレーを提供 （こどもは無料、大人300円） ●高齢者も一部参加 ・虐待等の発見機能があり、継続する必要がある。 ・現在は配食で実施。 ・会館で実施する時は、2階でおじいちゃんたちが、将棋やブロックで遊んでくれていた。 	・こどもに視点を向けられる活動である。 ・小学校の家庭科室を使用できることで、こどもたちが来やすい。 ・こどもたちの様子、変化に気付くには学校が適している。 ・コロナ禍でも配食のスタイルで続けていた。 ・家族での申し込みも増えてきた。 ・フードドライブでも食材が入ってくる。 ・こどもたちから声を掛けてくれるようになった。 ・親との関係ができ、地域活動に参加するきっかけになった。（世代を超えて繋がれる） ・こども食堂が、親同士の話題の一つになっている。 ・こども食堂から地域活動への広がりとなった。 
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・ネグレクトなどが気になる。 ・補助金が3年で切れ、資金難である。 ・継続していくことへの変遷。 （NPOを立ちあげても…と考える） →子育て支援ネットワーク委員会に参加し相談することもできる。 ・配食になると、親とのつながりが薄れがちになってしまう。 	・ボランティアを増やしたい。 ・回数を増やしたい。 ・居場所の機能を持ちたい。 ・居場所連絡会に参加し、その他の団体の工夫を知りたい。 ・今のこどもたちが大人になった時、次を担えるような循環になったら。 ・居場所となるよう、配食の横で将棋を指すなど交流を持てたら。



（南百済）地域懇談会

テーマ：親子サロン



① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第2・4金曜日10時～12時開催 ●第2金曜日は保健師が参加 ・約5組が参加され、参加者はほとんど顔なじみである。 ・令和2年（2020年）の夏に口コミで始まった。（最大12組の参加があった） ・1歳半～2歳の赤ちゃんは保育所・園に通っており参加が少ない。 ・コロナの影響によりボランティアは集まっていない。 	・第一子の親子同士がつながれる場になっており、息抜きのである。 ・他都市から転居され、慣れない環境での生活を支えている一部となっている。 ・自分より小さいこどもを可愛がるなど、子ども同士の交流がある。 ・保護者同士も他のこどもをお互いに見守る環境がある。 
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
	・新規開拓。 ・活動中の様子がわかるようなポスターの作成。 ・危険回避のため、赤ちゃんと歩けるようになった子との遊び場分け。 ・他都市から転居してきた人や、話しかけが苦手な人などへのフォロー。 ・役に立つイベントを盛り込み、参加に関心を持ってもらえるような工夫。 



令和5年度 湯里地域懇談会 まとめ

《 地域懇談会の目的 》

地域懇談会は「地域でつながることの重要性」の再確認や地域活動（集いの場や居場所）のさらなる活性化につなげることを目的とし、地域役員の方や活動者のみなさまと共に開催いたしました。

開催日時	令和6年2月13日（火） （午後1時～2時30分）	
開催場所	湯里社会福祉会館	
参加者	湯里地域 種谷会長 辰巳民生委員長 種谷女性部長 藤氏（会館管理人） 田宮氏（ラジオ体操） 阿南氏（親子サロン） 高松氏（将棋を楽しむ会） 山元氏（笑ゆう会） 小野サポーター 中野包括 区社協 岡田センター長 佐藤（事務局長） 荻野（地域支援） 郷原（地域支援） 岡村（体制整備） 作江（体制整備） 村上（見守り相談室）	 
テーマ	ラジオ体操、親子サロン、将棋を楽しむ会、笑ゆう会	



集いの場・居場所の重要性とは？

誰もが
孤立しない
地域づくり

つながり
づくり

居場所
づくり

(湯里) 地域懇談会

テーマ：ラジオ体操



① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●毎週火・木曜日の１０時～開催 (７・８月休み) ・毎回３０名前後と、安定して多くの方の参加がある。 ・開催して２年が経過している。 ・屋外の公園であることから閉塞感がなく、誰でも参加しやすい空気感があり、友人を連れて来られるなど新規の方も入りやすく、男性も多い。 ・会館に隣接した公園を活用して実施している。 ・近隣の保育園からの参加もある。 	・近隣にある保育園からの散歩と時間が重なっており、小さな子がいるだけで明るく賑やかな場となる。 ・８月は冷たい飲料水、１２月には手作りのぜんざいを振る舞うなど楽しみながら継続できる工夫をし、来られた方にも喜んでいただいている。 ・高齢者施設の「泰昌園」がラジオ体操に合わせて喫茶を開催されており、体操の後にお茶を飲みに行くという流れができるなど、親睦が深まっている。 ・体操だけでない楽しみがあることが人気の秘訣、長居して過ごすことができる。 ・ラジオ体操であることから体力がつくことが最大のメリット。「泰昌園」の喫茶からラジオ体操を知る人、ラジオ体操から喫茶の場を知る人、相乗効果がある。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・男性も参加していただいているが、さらに増えたら嬉しい。 ・のぼり旗を出す準備など大変なので、できる人が増えたらありがたい。 	・さらに周知し、参加者を増やす。 ・真ん中で見本となって体操してくれる人を２～３名声掛けし、役割を持ってもらおうと生きがいや、やりがいにつながるかもしれない。 ・いろんな人の意見を聞いてみると、この場をもっと良くしていく素敵なアイデアが出てくるかもしれない。 

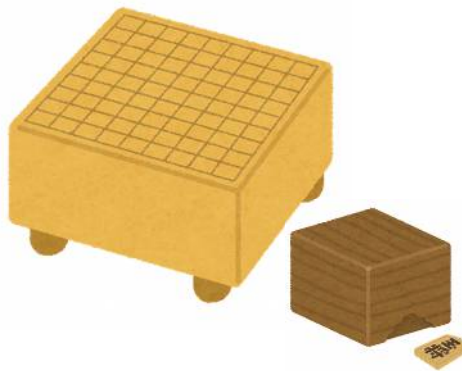


① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第2または第4金曜日 13時30分～15時開催 ・平均5組来られている。(コロナ禍で激減したが、徐々に戻ってきている。) ・保健師さんが来られていると体重を測ってもらえるため人気がある。 ・最近は保育所でプレのプレなどがあるため、赤ちゃんと保護者の参加が多い。 	・保護者の外出の機会となっている。 ・同じマンションの方がここで仲が深まるといった出逢いや会話のきっかけづくりができています。 ・スタッフが多く手厚く関わることができています。 ・保健師さんへ気になることを気軽に相談できている。 ・雑談の中で保護者同士の関係性ができるよう雰囲気づくりをするとともに、無理に話をしなくても居心地の良い空間となるよう心掛けています。 ・3か月に1回チラシを掲示板に貼るが、毎回の内容を記載し、見える化する工夫をしたことで参加者が増えた。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・開催時間を短くし、活動者も参加しやすくなるよう考えている。 ・さまざまアイデアがあり消防車を呼ぶなどできるが、赤ちゃんが増えているので月齢に見合った内容を考えていく必要がある。 	・今後、月齢に合わせたおもちゃを用意するなど工夫する。 ・保護者のストレスが解消できるような場にしていきたい。 ・とにかく親子で外出していただきたいという思いがある。1日1回は外の空気を吸えるよう、参加したいと思ってもらえる場所にしていきたい。  

(湯里) 地域懇談会

テーマ：将棋を楽しむ会

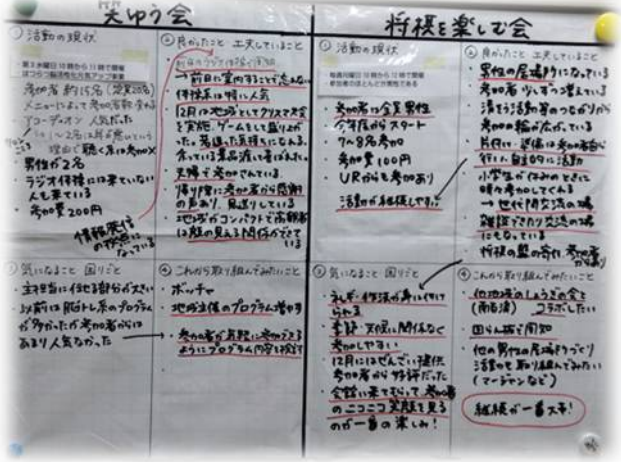


① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
● 毎週月曜日 10時～12時開催 ・今年度から活動開始。 ・参加者は7～8名で、全員が男性。 ・参加費100円。 ・URサンヴァリエ針中野からも参加あり。 	・男性の居場所になっている。 ・参加者が少しずつ増えている。 ・清掃活動などのつながりから、参加の輪が広がっている。 ・準備、片付けは参加者自ら行い、自主的に活動している。→活動が継続しやすい。 ・小学生が休みの時に時々参加してくれる。→世代間交流の場になっている。 ・雑談などが出来る交流の場にもなっている。 ・将棋盤の寄付が参加者からあった。 ・礼儀作法が身に付けられる。 ・季節・天候に関係なく参加しやすい。 ・12月にぜんざいを提供した際は、参加者から好評だった。 ・会館に来てもらい、参加者のニコニコ笑顔を見ることが一番の楽しみ！
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・まだまだ住民に活動が知られていない。 	・他地域の将棋会とコラボしてみたい。 ・回覧板で周知等を行う。 ・他の男性の居場所づくり活動を取り組んでみたい（麻雀など）。 ・継続することが一番大事。 

（湯里）地域懇談会



テーマ：笑ゆう会

① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第3水曜日10時～11時開催 ●はつらつ脳活性化元気アップ事業 ・参加費200円。 ・参加者は約15名で、うち男性参加者は2名程度（定員20名）。プログラムによって参加者数が変わる。 ・ラジオ体操には来ていない方も参加されている。 	・前日のラジオ体操で周知している。（情報発信の拠点になっている） →前日に案内することで忘れず参加してもらえている。 ・体操系のプログラムは特に人気。 ・12月は地域としてクリスマス会を実施。ゲームをして盛り上がり、「若返った気持ちになれる」などの感想をいただいた。 ・夫婦で参加してくれている。 ・見送りをしていると、帰り際に参加者から感謝の声をもらえ、励みになる。 ・地域がコンパクトで、高齢者は顔の見える関係が出来ている。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・主担当の保健師に任せる部分が多い。 ・以前は脳トレ系のプログラムが多かったが、参加者からはあまり人気がなかった。 	・ポッチャもプログラムに組み込んでいきたい。 ・地域主催のプログラムを増やす。 ・参加者が気軽に参加できるようにプログラム内容を検討したい。 

令和6年度 鷹合地域懇談会 まとめ

《 地域懇談会の目的 》

地域懇談会は「地域でつながることの重要性」の再確認や地域活動（集いの場や居場所）のさらなる活性化につなげることを目的とし、地域役員の方や活動者のみなさまと共に開催いたしました。

開催日時	令和6年8月2日（金） （午後2時～4時）	
開催場所	鷹合西会館	
参加者	鷹合地域 房本会長 中元女性部長 林副女性部長 南民生委員長 伊藤氏（食事サービス委員長） 桑野氏（食事サービス副委員長） 福本氏（食事サービス副委員長） 中西氏（親子サロン） 本田氏（鷹合ふれあいクラブ） 松永サポーター 中野包括 神原センター長 隅田管理者 区社協 佐藤（事務局長） 荻野・郷原・柴田（地域支援） 岡村・作江（体制整備） 矢野・日和佐（見守り相談室）	 
テーマ	食事サービス、虹の会、鷹合ふれあいクラブ ふれあい喫茶、親子サロン	

集いの場・居場所の重要性とは？

誰もが
孤立しない
地域づくり

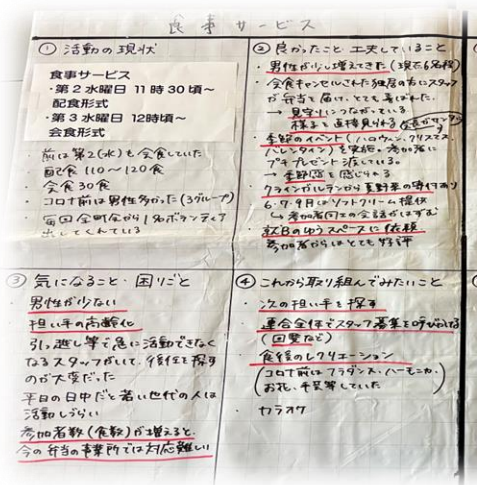
つながり
づくり

居場所
づくり

（鷹合）地域懇談会

テーマ：高齢者食事サービス



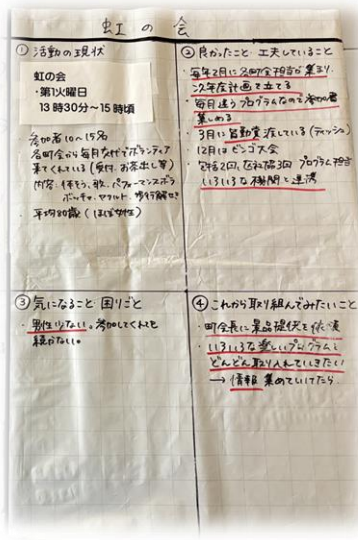
① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第2水曜日 11時30分頃～開催 配食形式 第3水曜日 12時頃～開催 会食形式 ・以前は第2水曜日も会食をしていた。 ・配食は110～120食、会食は30食程度の食数を提供している。 ・コロナ以前は男性参加者も多く、男性だけの卓が3卓あるほどであった。 ・毎回、全町会から1名ずつボランティアとして参加してもらっている。	・男性参加者が少しずつ増えてきている。（現在6名程度） ・会食をキャンセルされた独居の参加者にボランティアが弁当を届けると、体調を崩されていて、とても喜ばれた。また、直接会うことで、見守りにもつながっている。 ・季節のイベント（ハロウィン・クリスマス・バレンタイン）では、参加者にプチプレゼントを渡し、季節感を感じてもらっている。また、6・7・9月には、食後に小さなソフトクリームを提供している。食後の一服の時間となり、参加者同士の会話も弾んでいる。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・男性参加者が少ない。 ・担い手が高齢化してきている。 ・引っ越し等で急に活動できなくなってしまうスタッフがいた時、後任が見つからず大変だった。 ・平日の日中だと、若い世代の方は働いている人が多く、活動しづらいと思う。 ・参加者が増えてほしい気持ちもあるが、現在お弁当を頼んでいる事業所では、食数が増えると対応が難しいと言われているため、現状維持となっている。 	・次世代の担い手を探し、育成をしていきたい。 ・回覧などを活用して、連合全体にボランティア募集をしていく。 ・食後にレクリエーションをおこなっていききたい。（コロナ前は、フラダンスやハーモニカ、生け花、手芸などをしていた） 



(鷹合) 地域懇談会

テーマ：虹の会



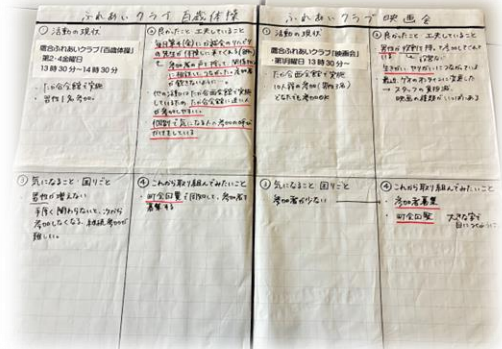
① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
● 第1火曜日 13時30分～15時開催 ・参加者は平均80歳前後の女性が多く、毎回10～15名程度の方が参加している。 ・内容は、体操や歌だけでなくボッチャやパフォーマンスボランティアに来てもらうなど、参加者に毎月楽しんでもらえるように創意工夫をしている。 ・町会から毎月交代で受付やお茶出し等のボランティアに来てくれている。 	・毎年2月に各町会担当者・包括・区社協が集まり、次年度の年間計画を立てていることで、講師やパフォーマンスボランティアとの調整がスムーズにでき、円滑な運営につながっている。 ・包括には年2回、区社協には年3回プログラムを担当してもらっており、関係機関と連携している。 ・12月にはビンゴ大会、3月には皆勤賞の参加者にプレゼントを渡すなどし、参加者に「また来たい」「続けて来たい」と思ってもらう工夫をしている。 
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・男性の参加者が少なく、来てくれてもなかなか定着にはつながらない。 	・各町会長に景品提供を依頼する。 ・情報を収集し、いろいろな楽しいプログラムをどんどん取り入れていきたい。 



(鷹合) 地域懇談会

テーマ：鷹合ふれあいクラブ「百歳体操」・「映画会」



① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
〈百歳体操〉 ●第2・4金曜日 13時30分～14時30分開催 ・鷹合会館で実施。 ・男性参加者1名が毎回来てくれている。 〈映画会〉 ●第1月曜日13時30分～開催 ・鷹合西会館で実施。 ・参加者数は10名前後。 3名ほどの男性参加者が来てくれている。 ・どなたでも参加可能。 	〈百歳体操〉 ・百歳体操の性質上、どうしても毎回同じ内容になってしまうため、関係機関に相談したところ、8月から毎月第4（金）に嘉誠会のリハビリの先生が体操指導に来てくれるようになった。 ・他の活動は鷹合西会館で実施しているため、鷹合会館の近くに住んでいる方が参加しやすい活動となっている。 ・気になる方などに個別で参加を呼び掛けることによって、見守りにもつながっている。 〈映画会〉 ・男性参加者が設営などの役割を持って参加してくれていることで、参加者のやりがい・生きがいにもつながっている。 ・今まで、遠くのレンタルビデオショップまで借りに行っていたが、今年度よりオンラインでレンタルするようにした。ボランティアの負担軽減だけでなく、借りられる種類が豊富となり、さまざまな映画が上映出来るようになった。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
(共通) ・男性の参加者が増えない。また、参加してくれても手厚く関わっていかないと、継続参加につながらない。 	(共通) ・各活動が目立つような形で、町会回覧で周知し、参加者を募集する。 



(鷹合) 地域懇談会

テーマ：ふれあい喫茶



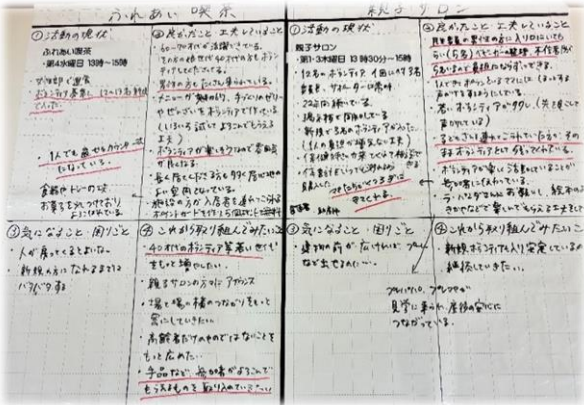
① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
● 第4水曜日 3時～ 5時開催 ・女性部で運営している。 ・女性部一人ひとりが声掛けをし、新規ボランティアが12名ほど増えた。 ・メニューが豊富で、夏は手作りの抹茶プリン・ゴマプリン・ミックスジュースを提供している。 ・前日から仕込むぜんざいが1年を通して人気である。 ・お楽しみ券を作り、5回参加してくれたら、次の1回は無料としている。 	・新規ボランティアが増えたので、活動者も喫茶の場も活気づいている。 ・60～70歳代の活動者が活躍できる場になっている。娘世代にも活動の輪が広がり、さらにそこからのつながりで、40歳代のボランティアも増えている。 ・カウンター式の席を設け、一人で来ても気兼ねなく座れる席を用意している。 ・食器やトレーがコンパクトでおしゃれ。お菓子もつけてお得感を出している。 ・活動者が楽しく活動することを大切にしており、喫茶の良い雰囲気にもつながっている。 ・高齢者施設入居者と職員が、一緒に楽しみに来てくれている。 ・学校の長期休み期間には活動者の娘が孫を連れて遊びに来る。3世代が集まって、場を盛り上げてくれている。 ・居心地の良い空間になっているので、長居される方が多い。どのテーブルも会話に花が咲いている。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・もっとたくさんの方に来てもらえたらと思う。 ・新規ボランティアが慣れるまで、しばらくはバタバタすると思う。 	・40歳代の若いボランティアを増やして次世代につなぎつつ、今の60～70歳代の活動者には細く長く楽しみながら活動を続けてほしい。 ・親子サロンの参加者にもアナウンスし、喫茶を若い世代にも気軽に活用してもらえよう、居場所同士のつながりを広げたい。 ・喫茶の対象者は高齢者だけではないことをもっと知ってもらいたい。 ・手品や楽器演奏などを取り入れ、喫茶に来る楽しみを増やして参加者に喜んでもらいたい。



(鷹合) 地域懇談会

テーマ：親子サロン



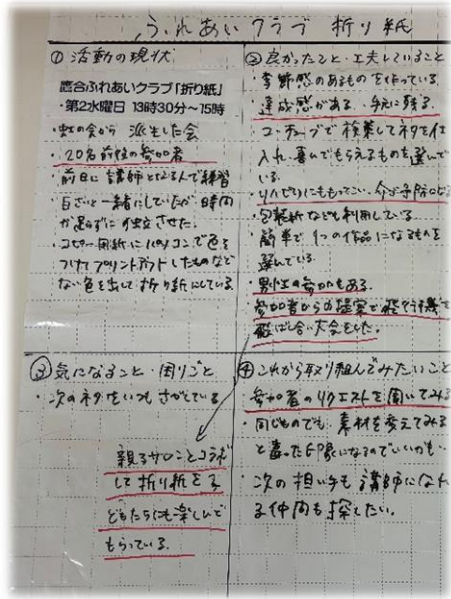
① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第1・3木曜日13時30分～15時開催 ・今年度3名のボランティアの入れ替わりがあった。12名のボランティアは交代で、3名の役員とサポーターは毎回参加している。 ・掲示板で周知している。 ・立ち上げから22年間継続している。 ・保護者に人気の体重計を購入した。 ・保健師・歯科衛生士・助産師などの参加もあり、身近な場所で相談ができる。 ・助産師がプレママ・プレパパを見学に連れて来られることもある。(地域で育てる安心感につなげている) 	・ボランティアは12名でローテーションを組んでおり、1人の負担を減らし、無理なく活動ができるようにしている。 ・民生委員やそのOBである5名の男性が協力してローテーションを組み、入口での声かけや見守り・ベビーカーの整理をしてくれており、防犯にもつながっている。 ・一人になっている保護者には必ずスタッフが声掛けて話を聴くようにしている。 ・若いボランティアが多く、活気がある(次の担い手を常に意識している)。参加者として来られていた保護者がボランティアとなり、引き続き関わっている方もいる。 ・楽しんで活動していることが、良い雰囲気や空気感につながっている。また、それを参加者も感じてくれている。 ・絵本の読み聞かせなどのボランティアを依頼し、いろんな方に関わってもらっている。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・会館の前がすぐ道路となっており、ミニ消防車を呼んだり、ビニールプールを出したりするなどのイベントはできない。 	・新規ボランティアが入り、定着してきている。このまま安定した運営を継続したい。 



(鷹合) 地域懇談会

テーマ：鷹合ふれあいクラブ「折り紙」



① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第2水曜日 13時30分～15時開催 ・毎回20名前後の参加がある。 ・以前は百歳体操の後に実施していたが、折り紙の時間をもっと取れるよう独立させた。 ・前日にボランティアと事前に折る練習をし、当日に備えている。 ・毎回の作品はYouTubeで情報収集し選んでいる。 ・男性も参加している。 	・作品が完成すると達成感があり、次回への意欲につながる。 ・手元に残るものなので、季節感のあるものや、飾りたくなるクオリティを目指しているが、簡単で作りやすいことも意識して選んでいる。 ・思うような色紙が市販で買えないときは、パソコンで色を付けプリントアウトしたコピー用紙を折り紙として使用するなど、皆さんに喜んでもらえるような工夫をしている。 ・折り紙は指先の作業なので、脳トレの要素があり、介護予防やリハビリにつながる。 ・参加者の提案で飛行機を作ってみたところ、その場で飛行機飛ばし大会になったこともあり、臨機応変に対応している。 ・作品を会館に飾ったり、親子サロンでプレゼントするなど、折り紙でつながりを広げている。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・次の作品のテーマを何にするかを毎回悩んでいる。 	・参加者からのリクエストを募集し、作りたいものを聞いてみる。 ・紙の素材を変えれば、同じものでも全く異なる印象になるのでやってみてもいいかもしれない。 ・次の担い手や講師になれる仲間が増えたらいいと思う。 



令和6年度 矢田北地域懇談会 まとめ

《 地域懇談会の目的 》

地域懇談会は「地域でつながることの重要性」の再確認や地域活動（集いの場や居場所）のさらなる活性化につなげることを目的とし、地域役員の方や活動者のみなさまと共に開催いたしました。

開催日時	令和6年11月20日（水） （午後1時30分～3時30分）	
開催場所	矢田北会館	
参加者	矢田北地域 堀会長 林民生委員長 丸島女性部長（食事サービス委員長） 藤村女性部長 佐古女性部長（健康づくり推進協議会理事） 中山氏（地域社協会計部長） 横田氏（青少年福祉委員長） 竹内氏（町会長・主任児童委員） 片岡氏（矢田北会館事務） 伊藤氏（地域福祉サポーター） 矢田包括 吉田センター長 矢田東ブランチャ 岡本氏 区社協 佐藤（事務局長） 荻野・郷原・櫻井（地域支援） 村上（見守り相談室） 岡村・中尾（体制整備）	 
テーマ	食事サービス・矢田北元気クラブいきいき百歳体操 ふれあい喫茶・親子サロン・矢田北ふれあい子ども食堂	



集いの場・居場所の重要性とは？

誰もが
孤立しない
地域づくり

つながり
づくり

居場所
づくり

(矢田北) 地域懇談会

テーマ：高齢者食事サービス



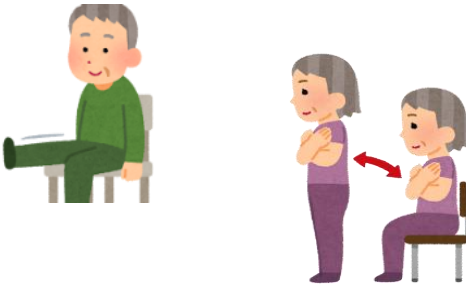
① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
● 第2・4木曜日 12時～13時開催 ・70歳以上の独居、80歳以上の夫婦が対象。 ・デイサービス利用等の理由によりコロナ以降の参加者は減少した。 ・コロナ以前は、各町会のボランティアも一緒に活動していたが、コロナ以降は女性部長のみとし第2（木）と第4（木）で分担している。 ・第2（木）と第4（木）のメニューはほぼ同じにしている。 ・第2（木）は、1～6町会の高齢者・女性部、第4（木）は、7～12町会の高齢者・女性部が対象となっており、どちらも参加者人数はほぼ同じ。 	・手作りの食事で、色合い等の見た目にもこだわっているため、参加者も毎回楽しみにしている。 ・折り紙でお箸袋とつまようじ袋を手作りしている。 ・食中毒予防も兼ね、調理工程の少ないメニューを取り入れるなどボランティアの活動負担を減らすようにしているが、その分、食事の質には力を入れている。 ・当日に来られていない方には、電話で参加を呼び掛けるなどして個別のフォローをしている。 ・相談機関がよく来られるので、参加者・ボランティアと相談機関の顔の見える関係ができ、気軽に相談できる。 ・関係機関には、第2（木）と第4（木）で同じ内容の情報提供をしてもらえるように依頼をし、すべての参加者に同じ情報が行き渡るようにしている。 ・関係機関によるクイズや体操、簡単なゲームなどのレクリエーションを参加者が楽しんでいる。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・コロナ以降、人数があまり増えない。 ・デイサービス利用開始後に参加が途絶えてしまうことが多い。 ・男性の参加者が少ない。 ・ボランティアの高齢化。 ・会館までの移動手段が無く、参加したくてもできない人がいる。車で送迎してあげたいが、希望者全員に対応するのは人員的に難しい。 	・年齢など参加条件を定めてはいるが、対象年齢より少し若くても独居の方は参加可能とするなど、個別の状況に応じて参加の条件を緩和することも考えている。 ・まずは一度来てもらえるよう、回覧でも周知をし、新しい人の参加を促す。 ・地域包括支援センターからケアマネジャーに連絡し、参加者が介護サービスを利用するようになっても、食事サービスに参加できるよう相談し、地域とのつながりが途絶えないようにする。



（矢田北）地域懇談会

テーマ：矢田北元気クラブいきいき百歳体操



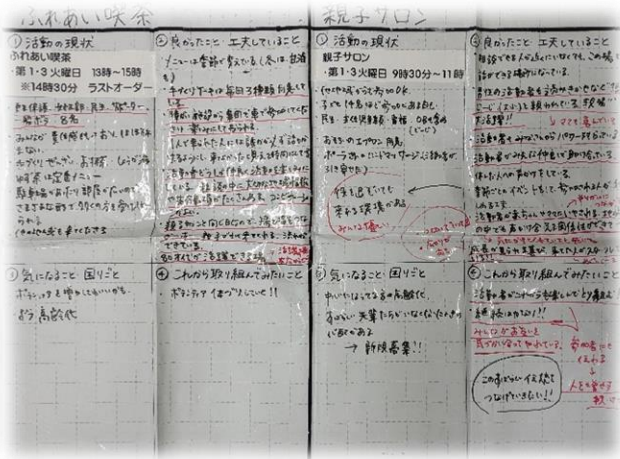
① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●月2～4回月曜日14時～15時開催 ※実施日は町会掲示板にて周知 ・月1回、百歳体操の後に、老健たちばなの専門職によるたちばな体操教室を実施している。 ・体操教室以外に、関係機関と連携し、体力測定、音楽療法、栄養講座、体組成計測定なども組み込んでいる。 ・ほとんどの方が会館まで徒歩で来られている。 	・参加者の状況を見て、随時DVDを止めることで、おもりの着脱や水分補給をそれぞれのペースで行えるようにしている。そのため参加者が焦ることなく参加できる。 ・ロコミや掲示板で毎月チラシを更新して周知することによって参加者が増えてきている。 ・参加者同士が気にかけて、見守り合ったり、お互いに誘い合って参加されている。 ・百歳体操の後のたちばな体操教室でも、疲れることなく体操できる体力がついてきており、元気な参加者が多い。 ・老健たちばなによる体操や関係機関による講座等が、参加者にとって楽しみの機会となっている。 ・コロナ禍以降も感染対策（検温、手指や椅子の消毒）を続けている。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・今後も参加者をどう増やしていくか。 ・男性の参加者が少ない。女性が多く、参加しにくいのではないかな。 	・体操後にレクリエーションやボッチャを取り入れたい。 ・ラジオ体操を一度試してみて、参加者の声や反応を見てみたい。 



（矢田北）地域懇談会

テーマ：ふれあい喫茶



① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第1・3火曜日13時～15時開催 ・更生保護女性会、女性部、民生委員、地域福祉サポーター、一般ボランティアの計8名で運営している。 ・運営ボランティア全員が責任感をもっており、ほぼ毎月休みなく従事している。 ・定番メニューには、ぜんざいや手作りケーキがある。 ・矢田北地域の方だけでなく、他の地域からも来られている。 	・季節ごとにメニューを替えて参加者に喜んでもらえる工夫をしている。 ・毎回2～3種類のケーキを手作りし、「選べる」ということを楽しんでもらっている。参加者の会話の糸口にもなる。 ・敷地が広く駐車スペースがあるので、送迎車で来られる障がい者施設の方々を受け入れることができる。喫茶メニューや地域の方との交流を楽しみにしている。 ・1人で来られた方がいれば、誰かが必ず話しかけるようにしている。「来てよかった」と思って帰ってもらえるよう配慮や気配りをしている。 ・活動者同士の仲が良く信頼関係がある。ちょっとした雑談やコミュニケーションの中で自然と大切な地域情報の共有がなされている。 ・親子サロンと同じ日の開催なので、ふれあい喫茶にも参加する流れができており、場と場が上手くつながっている。 ・80歳代のボランティアさんもおられ、長く活躍できる場になっている。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・ボランティアメンバーが高齢化しているので、若い力を取り入れたり、人数をもう少し増やしたい。 	・ボランティアを細く長く続けられるように、体力づくりも意識していく。 



（矢田北）地域懇談会

テーマ：親子サロン



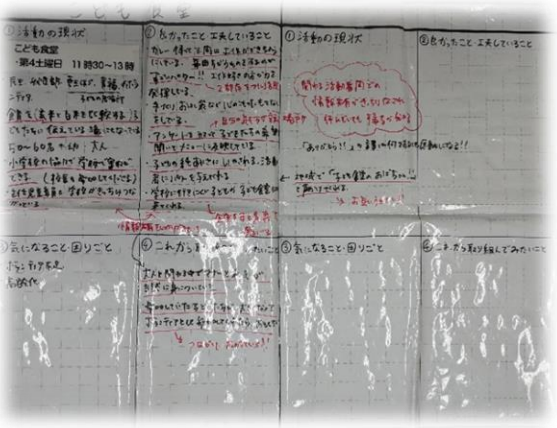
① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第1・3火曜日9時30分～11時開催 ・他地域からの参加もある。 ・参加者が多い。 ・民生委員、主任児童委員、青少年福祉委員など、OBも含め幅広く地域役員が関わっている。 ・ボランティアはみんなお揃いのエプロンをつけている。 	・保護者は近くに相談できる相手がいないとしても、この場で気軽に話し合うことができる。 ・男性の活動者も読み聞かせなどを行い、現場で活躍している。こどもたちからも人気で「じーじ」と呼ばれて親しまれ、それを見守っている保護者の方々も喜んでいる。 ・季節ごとのイベントにあわせて工作をするなど、参加者が楽しめる工夫をしている。 ・活動者同士の仲が良く助け合い、よいコンビネーションができています。 ・みんなに平等に情報が行きわたる様に、サロンを休んだ保護者への声掛けを行っている。 ・活動者自身が癒されている。赤ちゃんの楽しそうな様子や保護者の喜ぶ顔を見ることがボランティアのやりがいにつながっている。 ・ボランティアと参加した親子が、道で会った時でも声を掛け合うなど、気にかけてくれる関係性ができている。 ・参加者だった人が、ボランティアメンバーとなり、活動が次世代につながっている。 ・スタッフを退いても気軽に遊びに来ることができる環境と雰囲気がある。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・中心となって活動しているボランティアの方が高齢になってきている。 ・現在のボランティアが退いた後、どのように運営していこうか心配している。 ・新規のボランティアを募集している。 	・ボランティア同士互いに気遣いあって、楽しんで取り組んでいると「みんなで楽しむ雰囲気」が伝わり、自然と参加者が増えていく。これからもみんなで楽しむ。 ・住民が住民のために開催している「地域活動」という素晴らしい伝統を今後もつなげていきたい。 



(矢田北) 地域懇談会

テーマ：矢田北ふれあい子ども食堂



① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第4土曜日 11時30分～13時開催 ・民生委員、女性部長、更生保護女性会や青少年福祉委員(こどもの居場所担当)、ボランティアによって運営されている。 ・玄米と白米を比較して子ども達に伝えるなど、食育の場にもなっている。 ・参加者は50～60名の児童、幼児とその親など、小さい子どもから大人まで幅広い。 ・矢田北小学校の校長先生が参加してくださったり学校で開催案内をしてもらえるなど、小学校との協力体制ができています。 	・会館を2か所使用しているのでカレーができるのを待っている間に、こどもたちが工作をして楽しむことができ遊びの場にもなっている。 →工作好きの活動者が、毎回内容を変えてこどもたちが飽きないように工夫している。 ・手作りのお箸袋を使うなど、心のこもったおもてなしを心がけている。 ・こどもたちにアンケートを取り、食べたいものの希望を聞き取ってメニューに反映している。 →オムライスなどの意見が出たが、結局は「カレーが一番おいしい」との意見が多かった。 ・学校に行きにくいこどもが、こども食堂には来てくれる。 →主任児童委員と学校とで、情報共有ができているので1人ひとりの把握がしやすい。 ・地域でも「子ども食堂のおばちゃん」と声をかけてくれ、顔の見える関係ができています。「ありがとう！」の言葉がスタッフの原動力になっている。 ・大人と関わる中で、こどもたちに礼儀とマナーが自然と身に付いている。 ・ボランティアが休んでも、開催当日の様子が分かるような情報共有をしており、次回の参加が楽しみになる。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・ボランティアの高齢化と人手不足。 	・参加していたこどもたちが大きくなり、今度は子ども食堂の運営側として関わっていけば、地域のつながりの輪が広がっていく。  



令和5年度 矢田東地域懇談会 まとめ

＜ 地域懇談会の目的 ＞

地域懇談会は「地域でつながることの重要性」の再確認や地域活動（集いの場や居場所）のさらなる活性化につなげることを目的とし、地域役員の方や活動者のみなさまと共に開催いたしました。

開催日時	令和6年1月31日（水） （午前10時～正午）	
開催場所	住道矢田福社会館	
参加者	矢田東地域 矢田包括 矢田東ランチ 区社協	酒井会長 高橋副会長 山岡女性部長（食事サービス・ふれあい喫茶） 松田主任児童委員（親子サロン） 青野サポーター 吉田センター長 小泉氏 岡本氏 佐藤（事務局長） 荻野（地域支援） 郷原（地域支援） 岩永（地域支援） 岡村（体制整備） 中尾（体制整備） 森（見守り相談室）
テーマ	食事サービス、友愛訪問、ふれあい喫茶、 世代間交流（囲碁・将棋）、親子サロン	



集いの場・居場所の重要性とは？

誰もが
孤立しない
地域づくり

つながり
づくり

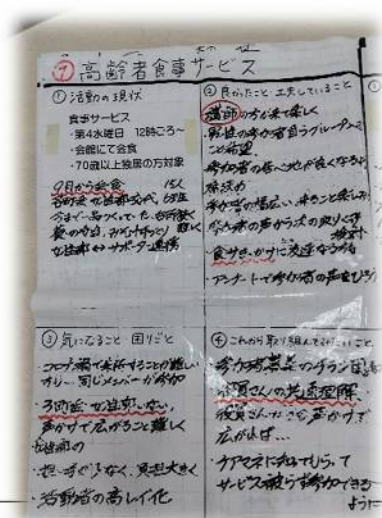
居場所
づくり

（矢田東）地域懇談会

テーマ：高齢者食事サービス



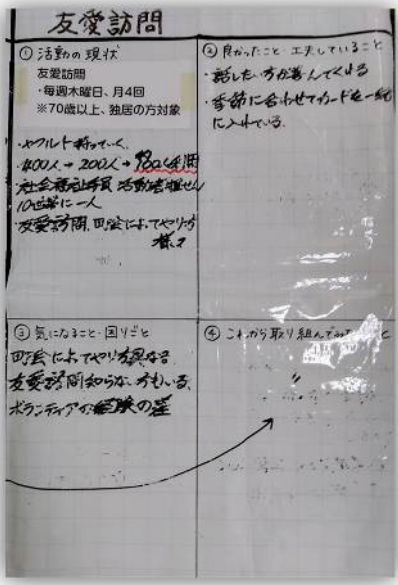
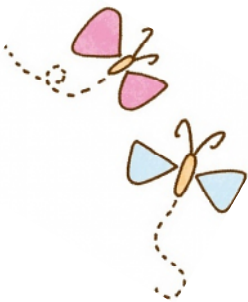
① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第4水曜日12時頃～開催 ●会館にて会食 ●70歳以上の独居の方対象 ・9月から会食に戻し、約15名参加。 ・ボランティアは、各種団体の協力を得て、交代で行っている。 ・やすらぎセンターから住道矢田福祉会館に場所が変わった。 ・コロナ禍は仕出し弁当を配食していたが、現在は仕出し弁当に手作りのみそ汁、フルーツを添えて会食にしている。	・各種団体と地域福祉サポーターの連携ができており、日頃からよく話をしている。 ・男性参加者は少ないが、「もっと交流したい」、「女性の中に一人でも構わない」とおっしゃる方がいた。男性参加者の中にも、会話や交流を楽しみされている方がいることが分かりよかった。 ・参加者の居心地が良くなるよう、配慮して席を決めている。 ・食事サービスをきっかけに友達になる方もおられ、楽しみにされている。 ・地域福祉サポーターが調整し、講座や情報提供を毎回行っている。「おもしろかった」、「こんな話を聞きたい」など参加者の声を拾い、今後のヒントにしている。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・コロナ禍の間に、デイサービスの利用を始めた方、高齢者施設に入所した方や、会館まで歩けなくなった等の理由で、参加者が減った。 ・参加を広げていくためには、町会からの働きかけがさらに必要と感じる。 ・担い手不足や活動者の高齢化により、現在の担い手の負担が大きくなっている。	・食事サービスのチラシを作り、改めて周知する。 ・地域役員に食事サービスの大切さを認識・理解してもらい、役員の声掛けで広がればと思う。 ・ケアマネジャーに食事サービスの日程を知ってもらい、介護サービスと被らないようプランを立ててもらう。



（矢田東）地域懇談会

テーマ：友愛訪問

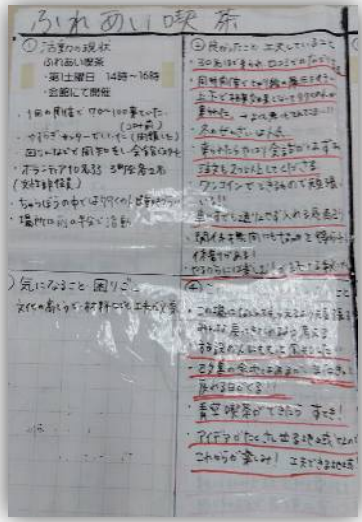


① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●毎週木曜日（月４回）開催 ●70歳以上の独居の方を対象 ・町会によって実施方法に違いはあるが、社会福祉委員がヤクルトを持参して訪問している。 ・最も多い時は400名に訪問していたが、コロナ前は200名に減り、現在は約100名を対象に訪問している。 	・話をしたい方もおられ、訪問すると喜んでくれる。 ・訪問を楽しみに待っておられる人もいる。 ・季節に合わせたカードを添えている。 ・友愛訪問を続けていると、普段と様子が違う時に気づくことができる。 
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・友愛訪問のことを知らない人がいる。 ・町会によって実施方法が異なる。 	・友愛訪問をケアマネジャーにも知ってもらい、介護サービスが同じ時間帯にならないように調整してもらう。 

（矢田東）地域懇談会



テーマ：ふれあい喫茶

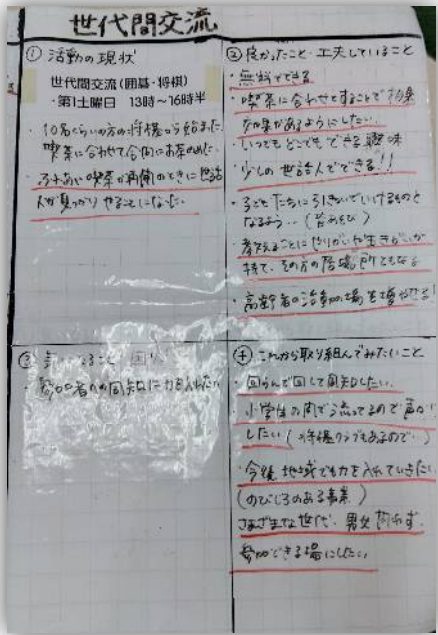
① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第1土曜日14時～16時開催 ●会館にて開催 ・コロナ前は、やすらぎセンターで開催しており、1回の参加者が70名～100名であった。 ・やすらぎセンターが閉鎖したため、開催場所を住道矢田福祉会館に変更して開催している。地域住民には、回覧や掲示板で周知し、再開した。 ・ボランティアは女性部役員10名、3町会から各2名参加している。 	・コロナ禍で休止していたが、再開後口コミで広がり約30名の参加者がある。 ・喫茶と同時に切り絵の作品展示（2階）を行った日は、相乗効果で多くの参加者があった。 ➡満員で良くも悪くもてんてこ舞いであった。 ・冬のぜんざいは特に人気があり、参加者にも喜んでもらえる。 ・参加されると会話が弾み、長居される方も多く2品以上注文してくださる。 ・ワンコインで提供できるもので頑張っている。 ・車いすでも遠慮せず参加できるよう、あらかじめ車イス用の通路を確保し、公園側からでもそのまま入れるようにするなどの配慮をしている。 ・やるからには「楽しむ！」が活動を続ける秘訣。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・物価の高騰で材料なども工夫が必要となっている。 ・会場の広さは以前の半分で、キッチンも以前に比べて狭く、中には数名しか入れない。 	・コロナ禍で休止し再開しても参加者が戻らない状況、休止から再開することの難しさを感じている。 ・参加者をコロナ前の状態に戻すためには、どうすればいいのか考えていきたい。またきっと戻れる日がくると思う。周知の範囲をもう少し広げていく。 ・参加者に馴染んでもらえる様に頑張る。 ・施設の人にもっと周知していきたい。 ・住道矢田福祉会館横に公園があり、青空喫茶ができればステキ！ ・アイデアがたくさん出せる地域なので、これからは楽しみ。まだまだできる地域だと思う。 ※参加者が増えても対応できるよう、どこまでボランティアの体制が整えられるのか？ということも考えていく必要がある。



(矢田東) 地域懇談会

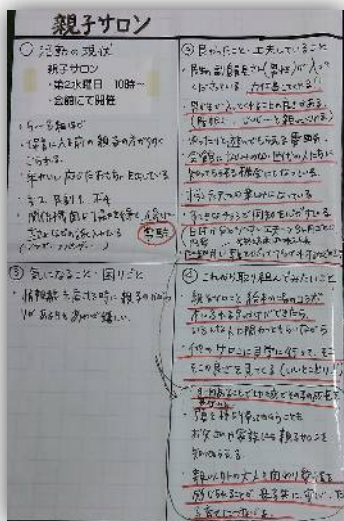
テーマ：世代間交流（囲碁・将棋）



① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第1土曜日13時～16時30分開催 ・約10名の将棋メンバーから始まった。 ・ふれあい喫茶を再開する際に、世代間交流に協力してくれる人が見つかり、再開できた。 	・無料でできる。 ・いつでもどこでもできる趣味になる。 ・ふれあい喫茶に合わせて開催することで相乗効果を生むようにしている。(合間に喫茶でお茶が飲める) ・ボランティアの人数が少なくてもできる。 ・教えることに、やりがいや生きがいを持つことができ、その方の居場所にもなる。 ・高齢者の活動を増やせる。 ・子どもたちに引き継いでいけるもの、例えば昔遊びなどもやっていきたい。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・周知に力を入れたい。  	・回覧して周知したい。 ・将棋クラブなど、小学生の間で流行っているので声をかけていきたい。 ・伸びしろのある事業なので地域でも、力をいれていきたい。 ・世代、男女問わず誰でも参加できる場にした 



① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第2水曜日10時～11時30分開催 (4月から変更) ●会館にて開催 ・毎回5～8組ほどの参加者がある。 ・保育所、幼稚園に入る前の親子が多く来られる。 ・年齢に応じたおもちゃを準備している。 ・主任児童委員2名、民生副委員長1名、ボランティア4名で運営している。 ・関係機関の協力を得て、お話などしてもらっている。(子ども・子育てプラザ、読み聞かせボランティアグループのラ・パンダ) ・保健師が毎回常駐してくれている。	・民生副委員長(男性)が活動メンバーに入っており、力仕事をお願いしたり、防犯面でも安心。男性がいてくれることの良さがある。こどもたちは「じーじ」と呼んでとても慕っている。 ・ゆったりと遊んでもらえる雰囲気づくりを心掛けています。 ・会館に馴染みのない世代の人たちにも、会館の存在や活動を知ってもらえる機会になっている。 ・開催日や内容がわかりやすいチラシを作成し、3カ月ごとに更新して周知している。 ・こどもたちの誕生月には、季節を意識した「映える写真」を撮影し、プレゼントしている。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・情報誌を届けてもらう時に親子と関わりを持ってほしい。	・関係団体と絵本を通してコラボができればいい。 ・いろいろな人に関わってもらいながら、こどもたちが本に触れるきっかけが増えたらと思う。 ・他の親子サロンを見学に行き、良い所は参考にし活動に生かしたい。 ・月1回開催することで、地域とこどもの成長を見守ることができる。 ・お父さんや他の家族にも親子サロンを知ってもらえるように周知したい。 ※親以外の大人と関わり、愛情を感じられることが、親子ともに安心した子育てにつながる。



令和5年度 矢田中地域懇談会 まとめ

《 地域懇談会の目的 》

地域懇談会は「地域でつながることの重要性」の再確認や地域活動（集いの場や居場所）のさらなる活性化につなげることを目的とし、地域役員の方や活動者のみなさまと共に開催いたしました。

開催日時	令和5年11月28日（火） （午後2時～4時）	
開催場所	矢田中ひまわり会館	
参加者	矢田中地域 中辻会長 酒井民生委員長（食事サービス） 田中女性部長 種田氏（親子サロン） 永野氏（百歳体操・ラジオ体操） 佐藤サポーター（ふれあい喫茶） 矢田包括区社協 吉田センター長 佐藤（事務局長） 荻野（地域支援） 郷原（地域支援） 岩永（地域支援） 岡村（体制整備） 中尾（体制整備） 森（見守り相談室）	 
テーマ	食事サービス、ふれあい喫茶、親子サロン、子どもひまわり食堂、百歳体操・ラジオ体操、矢田中ボッチャの会	



集いの場・居場所の重要性とは？

誰もが
孤立しない
地域づくり

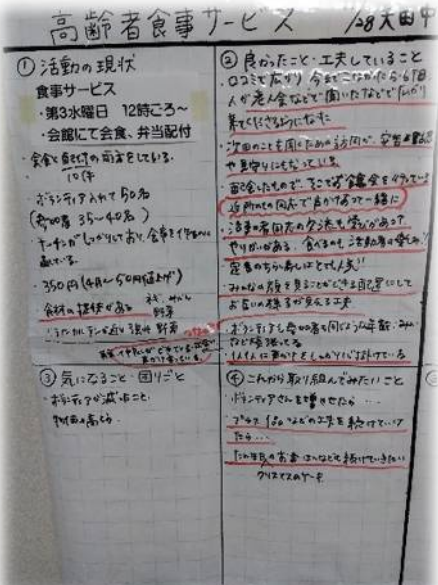
つながり
づくり

居場所
づくり

（矢田中）地域懇談会

テーマ：高齢者食事サービス



① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第3水曜日 12時頃～開催 ●会館にて会食、弁当配布 ・会食と配食（10件）の両方を行っている。 ※来館が困難な方には配食 ・ボランティアを入れて50名 （参加者35～40名） ・キッチンがしっかりしており、食事を作るのに適している。 ・物価が高騰し、食材も値上がりしたため、食事代も値上げせざるを得なくなった。 4月から50円値上げし350円に変更した。 ・クラインガルテンから食材（ネギ、みかん、野菜）の提供がある。クラインガルテンが近いのは強み。 	・「老人会で聞いた」などの口コミで広がり、今まで来られなかった5・6丁目の人が参加するようになった。 ・次回の参加を聞くための訪問が、安否確認や見守りにもなっている。 ・配食したお弁当を、近所の人同士が声を掛け合い、一緒に食べる「お食事会」を行っている。 ・ボランティア同士の交流も学びや、やりがいもあり、楽しみになっている。 ・定番のちらし寿司は大人気で、みなさん楽しみにしておられる。 ・みんなの顔を見ることができ机の配置にして、お互い顔が見えるように工夫している。 ・ボランティアも参加者も同じ年代で声を掛け合い、みんなで頑張っている。⇒再会、出会い、仲間ができるなどつながりができている。 ・「一人一人に声掛け」をしっかりと心掛けている。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・ボランティアが減ったこと。 ・物価高騰 	・ボランティアを増やせたらいいなと思っている。 ・プラス1品などの工夫を続けていきたい。 ・誕生日の赤飯、クリスマスケーキなども続けていきたい。 



① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第2・4水曜日10時～11時30分開催 ●会館にて開催 ・コロナの緊急事態宣言時以外は、ずっと続いていた。 ・途切れることなく開催し支援することが出来ている。(6・7組) ・子どもへの気づきの視点がしっかりしている。 ・ファミサポで気になる方を発見し、親子サロンにつないでいる。 ・お手紙を自宅に届けるなど、きめ細かい支援を心掛けている。 ・新しい方も来てくれている。 ・子育てに対して不安を持つ保護者の居場所になっており、言葉・発達に遅れがある子の保護者への対応も行っている。 ➡ありのままを受け入れてくれる場所	・畳、木のおもちゃが喜ばれる。 ・こじんまりしているので、アットホームで緊張せずに参加でき、居心地が良いと言ってもらえる。 ・元保育所の先生がいるので安心。質問への答えがはっきりしているので頼りがいがある。 ・関係各所につなぐ支援をしている。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
	・畳を新しくして、みんなに心地良い場をつくりたい。 ・子育てプラザや保健師などのプロの手を借りるのも喜ばれるかなと思う。 ・イベント（クリスマス、七夕、ハロウィン、お別れ会）をできるだけ大切にしていきたい。

(矢田中) 地域懇談会

テーマ：子どもひまわり食堂

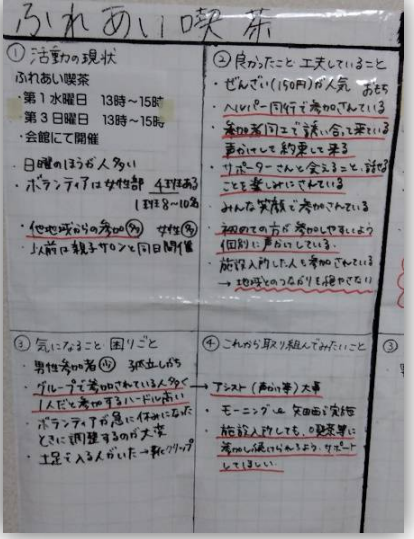


① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●学校の長期休みに開催 ●会館にて開催 ●こども 無料、大人200円 ・会食に戻した。 ・夏休みは親子で50名の参加があった。 大人：14名 幼児：11名 小学生：16名 中学生：2名 あらゆる世代の居場所、世代交流の場 ・メニューはカレー。 ・民生委員が運営していることが特徴。	・みんなで集うことを大切にしている。 ・学校の協力体制があり、チラシを児童に配布している。 ・親子サロンとのつながりがあるため、赤ちゃんから小学生まで集まる場となっている。 ・子ども食堂と親子サロンの担当が同じであるため、相乗効果で両方への広がりがある。 ・子ども食堂を楽しみにしている子が声をかけてくれるようになり、顔の見える関係ができた。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・もともとの地域性で交流が思うように進まないことがある。 ➡学校で関わるができることが強み。	・クリスマスは何か少し工夫し、ケーキなどをプラスしたい。

(矢田中) 地域懇談会

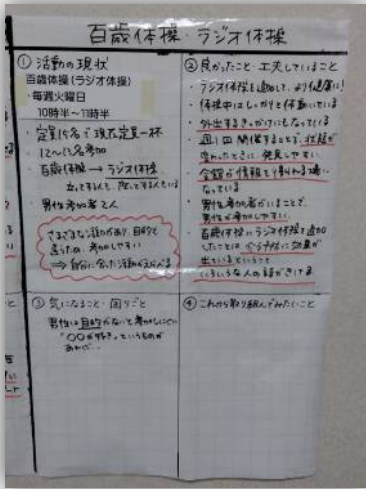
テーマ：ふれあい喫茶



① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第1水曜日13時～15時開催 ●第3日曜日13時～15時開催 ●会館にて開催 ・日曜の方が参加者は多い。 ・ボランティアは1班8～10名で構成しており、全部で4班に分かれて交代で活動している。 ・他地域からの参加者もあり、参加者は女性が多い。 ・以前は親子サロンと同日開催していた。 ・水曜日は保健師が参加し、血圧測定、健康相談コーナーを設けている。 	・ぜんざい（150円）が一番人気で、トースターで焼いたお餅を入れている。 ・ヘルパー同行で車イス利用者も参加されており、地域福祉サポーターやボランティアメンバー、他の参加者ともおしゃべりされている。 ・参加者同士で約束し、誘い合って参加されている。 ・サポーターと会って話しをすることを楽しみにされている。 ・初めての人が来られた時には手持ち無沙汰にならないよう、サポーターが個別に声を掛け、次の参加につなげている。 ・施設に入所された人も参加されている。 ➡地域とのつながりを絶やさない。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・男性の参加者が少ない。 ・仲良しグループで参加されている方が多く、一人だと参加するハードルが高いのではと思う。 ➡アシスト（声掛けなどが大事） ・ボランティアが急に休みになった時、代わりの人を探して調整するのが大変である。 ・以前に土足で入る人がいたので、玄関で靴を脱いでもらい、靴クリップを使うことにした。 	・ボランティア人員に余裕がないので難しいが矢田西地域の喫茶のようにモーニングの実施ができれば良いと思う。 ・施設に入所しても継続して参加することができるよう、介護施設や介護事業所にもサポートしてもらえよう伝えていきたい。 



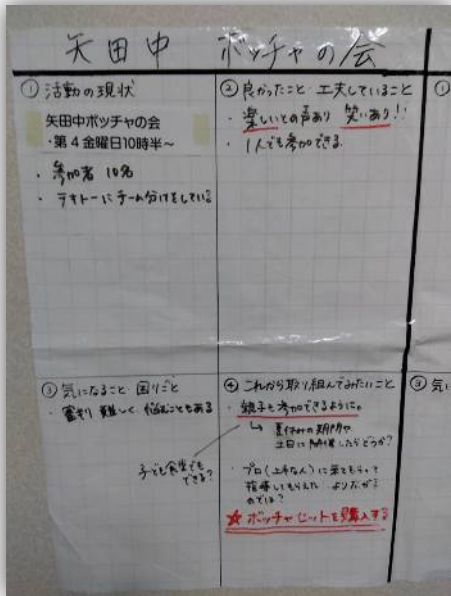
テーマ：百歳体操・ラジオ体操

① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●毎週火曜日 10時30分～11時30分開催 ・ 毎回12～13名の参加がある。 ・ 現在定員の15名に達しており、新規参加者を受け入れられない。 ・ 百歳体操の後、ラジオ体操を実施しているが、椅子に座って体操する方もおり、それぞれ自分に合わせたやり方で無理なく行っている。 ・ 現在男性参加者は2名のみである。 ずっと1名であったが、昨年7丁目の男性から問い合わせがあり、男性が増えたほうが元からの男性参加者にとっても良いのではないかというサポーターの判断で、順番待ちの人があったがこの男性を先に受け入れた。 	・ ラジオ体操を追加して、より健康的になった。 ・ 体操中はしっかりと身体が動いている。 ・ 外出するきっかけにもなっている。 ・ 週1回開催することで、いつも来ている人が来ない、何か様子がおかしいなど、状態が変わった時に発見しやすい。 ・ 男性参加者がいることで、新しい男性が参加しやすい。 ・ 百歳体操を始めた頃は、しんどかったが、継続する事で体力がつき、百歳体操の後にラジオ体操も続けできるようになってきた。 ➡介護予防の効果が出ているということ。 ・ いろいろな人と話が出来ると、矢田包括など関係機関から情報ももらえる。 ・ 入院中などで休んでいる人もいるが、退院して戻って来た時のために居場所を継続してあげたいので、欠員が出ても新しい参加の申し込みは受けていない。 ※ひまわり会館には、百歳体操、麻雀、ボッチャ、健康づくり教室、元気はつらつ木曜会、コスモスの会など様々な活動があり、自分に合った活動が選べる。それぞれ目的も違うため参加しやすいのではないかな。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・ 男性は目的がないと参加しにくい。 「〇〇が好き」というものがあり、それに合う活動があれば、参加するのではないかな。 ・ 定員一杯なので新しい人を受け入れられない。 同じ矢田中地域の花未来プラザ地域交流ホールで百歳体操を実施していることを伝えている。	

（矢田中）地域懇談会



テーマ：矢田中ボッチャの会

① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第4金曜日10時30分～開催 ・参加者は毎回約10名。 ・終了時間はきっちり決めず、その日の参加者で「これで最後にしようか」という風に話し合い活動している。	・ルールが簡単なので分かりやすい。 ・毎回笑いがあり、参加者からは楽しいとの声が上がっている。 ・1人でも参加できる。 ・最初はボールがあちこちに散らばっていたが、回数を重ねるうちに上達し接戦が増え、よりおもしろくなった。 ・花未来プラザ地域交流ホールでのボッチャ（第3土曜）にも参加している人がいる。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・審判、判定が難しく悩むことがある。  	・こども食堂で開催できないか。 ・親子も参加できるように、夏休みの期間や土日に開催してはどうか。 ・選手（上手な人）に来てもらって指導してもらえれば、より広がるのではないか。 ★現在、ひまわり会館と区社協間のボッチャセットの運搬をどうするのが課題となっている。来年度の予算でボッチャセットを購入するという方法もある。 

令和6年度 矢田西地域懇談会 まとめ

《 地域懇談会の目的 》

地域懇談会は「地域でつながることの重要性」の再確認や地域活動（集いの場や居場所）のさらなる活性化につなげることを目的とし、地域役員の方や活動者のみなさまと共に開催いたしました。

開催日時	令和6年10月29日（火） （午後1時30分～3時30分）	
開催場所	南部文化コミュニティセンター	
参加者	矢田西地域 美濃会長 来海副会長 磯崎副会長 山野副会長 山田正民生委員長 阪口女性部長（食事サービス委員長、ふれあい喫茶・親子サロン代表、地域福祉サポーター） 田中女性副部長 鍵田女性副部長 仲本女性部会計 山田裕氏（主任児童委員・親子サロン担当） 房本氏（健康づくり推進協議会理事） 吉本氏（スポーツ推進委員代表） 天岸氏（保護司理事） 山田邦氏（青少年指導員代表） 矢田包括 矢田西ランチ 区社協 吉田センター長、毛利氏 長谷川氏 佐藤（事務局長） 荻野・郷原・柴田（地域支援） 岡村・中尾（体制整備） 村上（見守り相談室）	 
テーマ	食事サービス、転倒予防教室、ふれあい喫茶、健康づくり教室 親子サロン、健康麻雀教室	



集いの場・居場所の重要性とは？

誰もが
孤立しない
地域づくり

つながり
づくり

居場所
づくり

(矢田西) 地域懇談会

テーマ：高齢者食事サービス



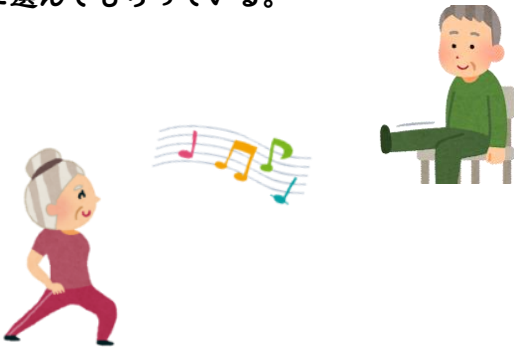
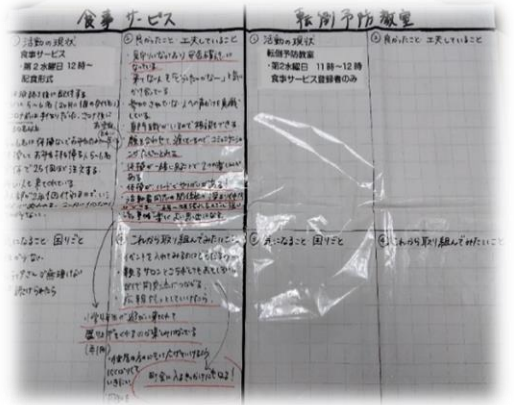
① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第2水曜日 12時～開催 配食形式 ・コロナ前は、手作りの会食形式で実施し、30名以上の参加者があった。コロナ以降、業者弁当の配食形式で再開した。 ・お弁当はボランティア分も含め、毎回約25食ほど注文している。 ・食事サービス利用登録者は、11時からの転倒予防教室に参加されていて、体操終了後にお弁当を持ち帰ってもらっている。 ・参加者が体操をしている間に、ボランティアで弁当の用意をしている。 ・体操には参加されず、弁当を取りに来られる方も5、6名ほどおられる。 ・ボランティアは毎回5～6名で、2ヶ月に1回の交代制にしている。2ヶ月に1回の担当となるので、ボランティアの負担も少ない。	・食事サービスだけではなく、体操も同日に実施することで、食事と体操の2つの楽しみがある。 ・来られていない人がいれば「どうしたのかな？」と気に掛け合っていて、見守りや安否確認の場にもなっている。 ・ボランティアメンバーは、普段から食事サービスに参加されていない人への声掛けも意識している。 ・ボランティア同士の関係性が深まって、良い仲間ができ、心強い。 ・ボランティア活動が楽しく、良い思い出の場になる。 ・参加者同士が仲良くなり、他の活動にも参加されるなど、地域に関わる機会が増え、町会に加入するきっかけにもなっている。 ・新しい人も来てくれるようになり、人数が増えてきた。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・男性参加者がいない。 	・親子サロンとコラボすればおもしろい。世代間交流にもつながり、若い人が町会に加入するきっかけにもなるのではないかな。 ・独居の高齢者にもっと参加してもらえるように気を配っていききたい。 ・広報、周知をもっとしていく。 ・ボランティアが無理のないように続けていけたらと思う。 



（矢田西）地域懇談会

テーマ：転倒予防教室



① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第2水曜日 11時～12時開催 （食事サービス利用登録者のみ） ・西中医学会の医療介護連携室の担当者が進行してくれている。 ・体操のDVDを見ながら、座ってできる体操（数種類）を実施している。 ・食事サービス利用登録者が、お弁当配付前に体操をしている。 ・転倒予防教室への参加、不参加は参加者に自由に選んでもらっている。 	・体操だけではなく、同日に食事サービスがあることで、2つの楽しみがある。 ・始めはゆっくりの体操だが、最後のDVDはハードな体操でやりがいがある。 ・来ていない人がいれば「どうしたのかな？」と気に掛け合っていて、見守りや安否確認の場にもなっている。 ・ボランティアメンバーは、普段から転倒予防教室に参加されていない人への声掛けも意識している。 ・毎回、専門職の方に参加していただいているので、顔なじみの関係になり、相談しやすい。 ・新しい人も来てくれるようになり、参加人数が増えてきた。 ・体操終了後に、相談機関からの情報提供や資料配布の時間を設けている。それらに対する質問や、普段の心配事などもその場で話すことができる。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・男性参加者がいない。 	・昨年度までは、矢田西小学校の4年生が来て、踊りを披露したり、一緒に遊んだり、盛り上げてくれるのが楽しんでいた。今後も、何かイベントを取り入れてはどうか。 ・ロコモ体操で流れる歌がおもしろいので、歌詞を大きく書いて、歌いながら体操できるようにしてはどうか。 



(矢田西) 地域懇談会

テーマ：健康づくり教室



① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第1・3木曜日 13時30分～14時30分開催 ・プラチナダンス、演歌体操、棒体操、ゴムボール体操などを実施し、いろいろな講師が来られている。 ・保健師さんが中心となり、年間プログラムを決めて、身体を動かすことに特化した内容となっている。  	・プログラムが多く、豊富なメニューとなっている。 ・地域に関わる専門職やボランティアの声掛け、参加者の口コミで、参加者が増えている。 ・1度参加したら良さが分かってもらえ、継続して参加する人が多く、欠席者が少ない。 ・初めて参加する人には、ボランティアや他の参加者が声を掛け、無理のないように配慮している。それが継続参加にもつながっている。 ・1人で参加しても、たくさんの人とコミュニケーションができて、仲間づくりの場になっている。 ・1人でのよりも、大勢でわいわいと運動する方が気持ちも上がり、良い時間が過ごせている。 ・閉じこもり予防にもなっており、90代の方も参加されている。 ・毎回飲み物を用意し、きちんと水分補給できるように時間を取っており、参加者にも喜ばれている。 ・参加者からは、体操した日の夜はよく眠れるとの声がある。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・ケガがないように気配りをしている。 ・自転車で来られている参加者も多く、無事に家まで帰られたかなといつも気にかけている。 ・男性参加者が少ない。	・細く、長く活動を続けていきたい。 ・これからも参加者（特に男性）を増やしていきたい。 



（矢田西）地域懇談会

テーマ：健康麻雀教室



① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第2・4月曜日13時～16時開催 - 参加者は20名を超えている。 - 参加費1回500円で、コーヒーと菓子を用意している。 - 誰でも参加できるので、地域外や他区からの参加者もいる。 - 男性も毎回6名ほど参加している。 - 掲示板で周知している。 	- 男性の参加者がたくさんいる。 - 麻雀を教えることができる人が数名いるので、初心者でも安心して参加することができる。 - 年齢に関係なく、麻雀を始めることができる。 - 麻雀は脳トレ効果もあるので、関心が高く、また楽しく取り組めるので人気がある。 - コーヒーと菓子を食べながら、リラックスして参加できる空間となっている。 - 参加をきっかけに、仲間やつながりができるので、閉じこもり予防や孤立防止につながっている。 - 麻雀を楽しむ時間は、とても充実している。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
- 参加者をもっと増やす。 - もっと男性の居場所にしていけないといけない。  	- 細く、長く活動を続けていきたい。 - もっと知ってもらえるよう、周知していきたい。 



（矢田西）地域懇談会

テーマ：ふれあい喫茶



① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
● 第1日曜日9時30分～11時開催 ・コロナ以降、ボランティアの負担軽減のため、メニューをホットコーヒー、アイスコーヒー、ミックスジュースに限定し、サラダをゆで卵に変更した。 ・毎回30名ほど参加されている。 ・コロナ以降、連合女性部と健康づくり推進員理事で運営している。 	・参加者同士で「あんた来てくれたんや」と、交流が生まれている。 ・100円なので頼みやすい。 →2品頼むなど、くつろいでいる方も多い。 ・日曜開催なので、こどもも参加することができる。 →世代間交流の場となっている。 ・ギター演奏のボランティアが来てくれており、男性の参加のきっかけにもなっている。演奏があることで、居心地の良い場となっている。 ・ボランティアとして活動していると、いろいろな人と出会えるのが楽しみ。活動者も楽しむことが大事だと思っている。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・コロナ以降、再開しても会館に来られなくなってしまった高齢者が多くいた。 ・喫茶をさらに活性化するためにも、ボランティアの確保が必要だと感じる。 	・喫茶以外の活動（グラウンドゴルフ等）の参加にもつなげたい。 →場と場をつなげることにつながるのではないかな。 ・もっと参加者に来てもらいたい。 ・コロナ以前のメニューを復活するとなると、毎回12～13名ほどのスタッフの確保が必要となる。 

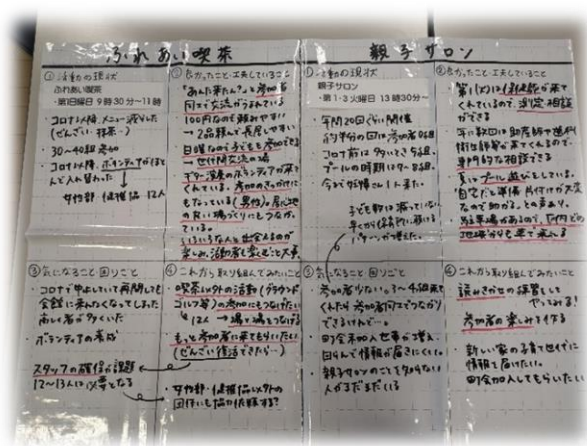


（矢田西）地域懇談会

テーマ：親子サロン



① 活動の現状	② 良かったこと、工夫していること
●第1・3火曜日 13時30分～15時30分開催 ・年間22回の開催となる。そのうち約半分は参加者が0組だった。 ・コロナ前は多い時で5組参加されていた。プールの時期は7～8組が参加される。 ・妊婦さんが来られたこともあり、保健師に相談をしたり、子育ての情報を聞いて帰られた。	・第1火曜日は保健師が来てくれているので、測定や相談ができる。 ・年に数回は助産師や歯科衛生士等が来てくれるので、保護者は専門的な相談ができる。 ・夏はプール遊びをしている。保護者からは「自宅だと準備・片付けが大変なので助かる」と喜びの声をもらっている。 ・駐車場があるので、区内ならどの地域からも車で来て参加することができる。
③ 気になること、困りごと	④ これから取り組んでみたいこと
・こどもの数は減っていないが、早くから保育所に預ける家庭が増えたためか、参加者が少ない。3～4組来てくれたら、参加者同士でのつながりができる。 ・町会未加入世帯が増え、回覧での情報が届きにくくなっている。 ・親子サロンのことを知らない人がまだまだいると感じている。	・読み聞かせの練習をし、やってみたいと思う。 ・参加者の楽しみをつくる。 ・新しい家の子育て世帯に情報を届けるためにも、町会加入をしてもらいたいと思っている。



令和6年度 ●●地域 地域懇談会

令和●年●月●日（●）
東住吉区社会福祉協議会



流れ・進め方

- 会長あいさつ
- 区社協について
- 地域懇談会の目的について
- 小地域福祉活動について
- 居場所・集いの場はなぜ重要？
- 集いの場や居場所に関わるボランティアって？
- 地域アセスメント
- グループワーク（食事サービスやふれあい喫茶等の状況等について）
- 全体共有
- おわりの挨拶

＜東住吉区社会福祉協議会が行っている事業＞ **地域福祉の推進** **地域支援** **個別支援**

地域福祉活動支援事業	地域の福祉活動の支援や福祉課題の把握、社会福祉の啓発、ボランティア活動の推進等を行う。
法人運営事業	総務全般、賛助会費、寄付金等の受付等を行う。
生活支援体制整備事業	高齢者が住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けられるよう、地域住民や関係団体と連携しながら、介護予防の取組みや居場所づくり、生活支援サービスなどを推進する。
介護予防事業（なにわ元気塾）	高齢者が介護予防に取り組むためのプログラム等の事業を行う。
日常生活自立支援事業（あんしんさぼーと）	認知症・知的障がい・精神障がいのある方々など、本人の契約に基づき、日常の金銭管理・福祉サービス等利用援助・預かりサービスを行う。
見守りネットワーク強化事業（見守り相談室）	要援護者名簿に係る同意確認、孤立世帯への専門的対応、認知症高齢者等の行方不明時の早期発見等を行う。
生活福祉資金貸付事務事業	生活福祉資金の貸付相談・支援等を行う。
生活困窮者自立支援事業（くらしサポート）	社会的・経済的困窮者への自立に向けた相談支援等を行う。
地域福祉サポート事業	身近な地域の相談窓口として配置されている、地域福祉サポーターの育成と支援、広報活動等の事務局業務を行う。
地域包括支援センター運営関連事業	東住吉区地域包括支援センターとして、北田辺・今川・田辺・南田辺地域を担当。高齢者の総合相談、高齢者虐待の早期発見・防止等の権利擁護等、他地域ケア会議・家族介護者の会等を行う。
老人福祉センター事業	老人福祉センターの運営、老人クラブへの支援等を行う。

地域懇談会の目的について

地域懇談会を令和5・6年度の2年間で14地域で開催する

＜目的＞

- ・ 地域活動者と区社協等の関係機関との**顔の見える関係づくり**を行う
- ・ 地域活動者との話し合いの場を持ち、**地域の現状・ニーズ**を知る



区社協として、地域活動の**後方支援**を行い、
誰もが孤立せず、安心して暮らせる地域づくりを目指す

小地域福祉活動について

- 昭和37年、全国社会福祉協議会は「社会福祉協議会基本要綱」を策定し、「**住民主体**」の原則を打ち出した。住吉区墨江社協で開催されたボランティアスクールをきっかけとし、昭和47年に「老人食事サービス」が開始され、それから実施地域数が毎年増え、会食・配食など、それぞれの形態で市内各地域に広がった。
- 平成12年度から、地域社協を主体として地域住民の参加と協力により支え合い助け合う、すべての住民を対象とした小地域福祉活動を小地域で推進することを目指した「**小地域ネットワーク活動推進事業**」が府下では平成10年度から、市内では平成12年度から始まった。さまざまな支援を必要とする方に対して「**見守り・声掛け**」「**ふれあい喫茶**」「**子育て（親子）サロン**」「**世代間交流**」などの活動を推進。

小地域ネットワーク活動とは

小地域（概ね小学校区）を単位として、地区福祉委員会を中心としながら要援護者1人ひとりを対象に、保健・福祉・医療などの関係者と住民が協働して進める、見守り・援助活動です。地域の高齢者、障がい（児）者、及び子育て中の親子などが地域の中で孤立することなく、安心して生活できるよう地域住民による支え合い活動を展開し、地域における福祉の啓発と住みよい福祉のまちづくりを進めようというもの。

社会背景として…

- ・独居世帯の増加や核家族化の増加等に伴う社会関係や人間関係の希薄化
- ・在宅生活を公的サービスだけで対応する限界
- ・災害時のときには地域での日常的なつながりが重要

食事サービス

- おおむね65歳以上の1人暮らし高齢者・高齢者世帯等を対象に、事前登録（申込み）を地域会館等で集まって食事をして交流を図る「会食」や見守り訪問を兼ねた自宅への「配食」を実施。
- 昭和47年に住吉区墨江社協で開始し、徐々に市内各地域に広がっていった。
- 当時、独居高齢者は食事を質素なもので済ませて栄養が偏ったり、孤立する等の社会問題が徐々に大きくなっていった時期であった。



友愛訪問

- 見守りが必要な独居高齢者等を対象に、福祉委員等が定期的に訪問することで、安否確認と孤独感の解消を図るとともに、地域住民の支え合いの意識を高め、地域での助け合いの輪を広げることを目的に実施。



親子サロン

- 乳幼児と保護者が楽しく遊べ、子育ての悩みを相談でき、仲間の輪が広がることを目的とした活動。
- 平成14～15年に全国社会福祉協議会のモデル事業が実施され、子育て世帯が孤立することなく地域で子育てを進める活動として広がった。その背景として、核家族化、子育て中の親の孤立、児童虐待等の社会問題がある。



ふれあい喫茶

- 100円程度の参加費を払い、コーヒー等を飲みながら、参加者同士やボランティアも交えた茶話を楽しむ活動。
- 当時、食事サービスは、独居高齢者や高齢者世帯が対象であり、家族と同居する中間独居の高齢者が参加できないという課題があった。平成12年頃から対象者を限定しない地域での交流の場として、ふれあい喫茶の活動が広がっていった。



居場所・集いの場はなぜ重要？

誰も孤立させない地域づくり

つながりづくり

居場所づくり

- ① 地域住民同士が普段から**顔の見える関係づくり**ができる
 - ➡ **孤立**を防ぐ
 - ➡ **災害時**にも助け合える
- ② 地域とのつながりが希薄な人にとって、地域と**つながる**機会や居場所となる
- ③ **閉じこもり予防**とともに、生活に**メリハリ**がうまれる

居場所や集いの場に関わるボランティアって？

また来たくなる 場づくり役

- ★声かけ
- ★プログラム
- ★環境づくり



おいしい、楽しい、みんなに会えて嬉しい…など、「また来たい」「ここに居ていいんだな」と思える場があることは地域で暮らすの安心感につながります。

気になる方の 普段からの変化 発見・気づき役



同じ地域で暮らす住民同士だからこそ、ちょっとした変化に気が付くことができます。また、**気づきを共有し、いろんな人の目で気にかけること**で見守りの輪を作ることができます。

関係機関への つなぎ役



気づきを早期に関係機関に共有しておく心安いです。そうすることで、その後の必要な支援にも早期につなげることができます。

● ● 地域 地域アセスメント（地域の状況） ～地域の強み・すてきなところ～

- こどもから高齢者まで幅広い年代の人が会館を利用しており、地域の交流拠点となっている。
- 小学校との連携が密で、こども食堂等との協力体制が構築できている。
- 掲示板を積極的に活用したり、集いの場のなかで関係機関による情報提供の時間を作るなど、情報発信に力を入れて取り組んでいる。
- 食事サービスの際にふれあい喫茶の周知をするなど、場と場をつなぐ工夫をしていることで、高齢者の外出の機会を増やすことにつながっている。
- 親子サロン・こども食堂では若い世代のボランティアも多くかかわっている。
- ボランティアの生きがいややりがいも大事にしながら、集いの場を運営されている。
- 地域の専門学校等と連携し、地域のイベントを実施しており、世代間交流の場となっている。高齢者にとっては生活の中の刺激となり、学生にとっては地域の高齢者の現状を知ったり、社会勉強の機会となっている。
- 見守り意識が高く、会館に来られない人へのきめ細やかな対応として、友愛訪問や配食などを実施されている。
- 商店街や事業所の地域貢献活動と連携し、地域活動を行うことで、高齢者だけでなく、幅広い世代に対して広がりのある内容を実施している。

グループワーク



食事サービス		ふれあい喫茶	
①活動の現状	②良かったこと 工夫していること	①活動の現状	②良かったこと 工夫していること
③気になること 困りごと	④これから取り 組んでみたいこと	③気になること 困りごと	④これから取り 組んでみたいこと

<テーマ>

- 食事サービス
- ふれあい喫茶
- 親子サロン
- 百歳体操
- こども食堂

<進め方>

- ①自己紹介（所属・名前）
▼
- ②各グループでテーマについて話し合い、出た意見を4つのカテゴリーに分けながらシートに書き込む
▼
- ③各グループで出た意見を全体共有する



全体共有



本日はお疲れさまでした。
ありがとうございました。
気を付けてお帰りください。



「地域懇談会」参加者の声

社協の取り組み	・ 社協の歴史や地域活動誕生の背景が勉強になった。
集いの場の重要性やボランティアの役割	・ 地域福祉活動の重要性やボランティア活動の意義などを再確認できた。 ・ 「また来となる場づくり」（声かけ、プログラム、環境づくり）が大切だと実感でき、今後の取組みの参考になった。 ・ 自分たち行っている地域活動が大切なことだと改めて感じました。
顔の見える関係づくり	・ 地域活動者、専門職が顔の見える関係になることが大切だと思った。 ・ さまざまな活動間の横のつながりがグループワークを通してできた。 お互いの活動の場で周知し合うことで今後の参加者の増加につながりそう。 ・ いろいろな立場からの視点（ボランティア・町会長・民生委員）からの意見が聞けてよかった。
各活動の現状・課題や活動者の思いの共有	・ ボランティアが楽しみながら、参加者への愛を持って活動していること、思いや悩みなど苦労しながら運営していることを知ることができた。
集いの場・居場所の活性化、活動者のモチベーションの維持・向上	・ 話し合って書き出すことで、良い点や改善点、これからの課題について共通認識を持てた。これからのことを考える良い機会になった。 ・ 誰かがやってくれていると分かっていたが、内容を聞くと少しでも協力しなければと感じた。 ・ 新しいやり方や人材の確保を考える良い機会だと思った。
話し合いの場(つながること)の重要性	・ 地域の課題も時間の経過によって変化するため、定期的にこのような話し合いの場があったほうがいいと思った。 ・ 前に進むため、継承のため、みんなが顔を合わせて話し合う機会は必要だと思った。

※当日の参加者アンケートに基づき抜粋

地域福祉活動の継続・発展のために必要な**3つの要素**



これからも区社協は「話し合いの場」の支援をさせていただきます！

地域懇談会をきっかけに 地域でつながることの重要性を再確認



居場所づくりや見守り活動などの地域福祉活動の推進にあたっては、地域役員・活動者と区社協等の関係者が地域の現状・課題や、活動から見えてきたことをふりかえり、これからを考える「話し合いの場」をつくっていくことが大切です。

市社協が策定した第3期大阪地域福祉活動推進計画（令和6～8年度）においても、区社協が実践する具体的項目の一つに「地域での話し合い場づくりの支援」を掲げており、住民座談会、地域住民と福祉専門職による定期的な連絡会、小地域福祉活動計画の策定・推進など、さまざまな形で話し合いの場が開催されています。

本記事では、東住吉区で実施されている「地域懇談会」について紹介します。

2年間で全14地域で実施することをめざして

東住吉区社協では令和3～4年度に、生活支援体制整備事業のワーキング会議として、区内14地域ごとに、地域福祉サポーター（各地域に1人ずつ区独自事業により配置）と福祉専門職を中心とした小規模な意見交換の機会をつくってしました。この場をもとに、令和5～6年度に、地域福祉活動に関わる人たちが、活動の意義や目的を確認し、これからの話し合い場へと発展させたのが「地域懇談会」です。

■ 地域懇談会のながれ

実施前

- 1 地域社協会長会や区社協理事会等で地域懇談会の開催について趣旨説明・協力依頼
- 2 各地域社協会長と開催時期や手法・参加者・取り上げるテーマについて調整
- 3 地域福祉サポーター等の主たる活動者を交えて、日時・参加者・テーマ等を調整
- 4 地域支援担当・生活支援体制整備事業の地域担当職員が対象地域のアセスメントを深め、データベースを更新
- 5 内部事前打合せを実施
各地域担当職員がおこなった地域アセスメント（地域の強みや特徴等）の内容を共有し、さらに深める

実施時（地域ごとに開催）

当日のプログラム

- 1 はじめに（地域社協会長あいさつ）
- 2 自己紹介
- 3 区社協からの説明
 - 区社協について ● 地域懇談会の目的について
 - 居場所・集いの場の重要性やボランティアの役割について ● 区社協から見た当該地域の強みや特徴
- 4 グループワーク・全体共有
 - (1)「こども・全世代対象」「高齢者対象」の2グループに分かれて、各テーマ（食事サービス、ふれあい喫茶、親子サロン、こども食堂等の地域独自の居場所）について話し合い、出た意見を4つのカテゴリー（①活動の現状、②良かったこと・工夫していること、③気になること・困りごと、④これから取り組んでみたいこと）に分けながらシートに書き込む（※進行・書記役は区社協職員）
 - (2)各グループで出た意見を全体共有する（※発表者は地域活動者）
- 5 おわりに
地域役員あいさつ／事務局長あいさつ／アンケート記入／記念撮影



実施後

- 区社協内で当日中にふりかえり会をおこない、アンケート結果や職員の所感から今後に活かせることを共有（当該地域への関わりや以降の地域懇談会に活かせることはすぐに反映）
- 地域支援担当・生活支援体制整備事業の地域担当職員が各地域の報告書を作成し、地域社協会長等に内容の確認を依頼
- 令和6年5月に令和5年度開催分（7地域）の報告書（冊子）を作成し、区社協理事会で配付。令和6年度末に全14地域分の報告書（冊子）を作成予定

▼令和5年度
地域懇談会
報告書



■ 地域懇談会で話し合われた内容の一例

○○地域 食事サービス	
①活動の現状	②よかったこと・工夫していること
● 配食形式から会食形式に戻り、長机に一方向で着席するスタイルで実施 ● 参加者は約30名（コロナ前は60名） ● 南北に会館が一ヶ所ずつあるが、北エリアの会館のみで実施（配食形式の頃は両会館で実施）	● 参加者同士が顔の見える関係性ができている。来ていない人がいれば「今日どうしたのかな？」と気にかけて合うなど、見守りの場になっている ● 70歳代が活躍できる場であり、活動者にとってもやりがいにつながっている ● 居場所をきっかけに友人関係になることもあり、楽しみにしてくれている ● 連合町会の広報紙に弁当の写真を載せることで、新規参加者の増加につながっている
③気になること・困りごと	④これから取り組んでみたいこと
● 夫婦の参加が少ない ● コロナ以降、人数が戻らず、未だ少ない状態のまま運営している ● 会館から離れた場所の人が参加しにくい ● 参加者の中には会食に未だ抵抗感を持つ人もいる	● コロナ前のように対面式の机の配置にしたい ● 会館から離れた場所の人も参加しやすいよう、車で送迎できるようにしたい ● 各町会長から気になる人へ参加の呼びかけをしてもらう ● 今後参加者が増えても受け入れできるように、開催回数を月1回から月2回に増やしたい

※令和5年度報告書掲載内容に基づき作成



活発な意見交換のための工夫

区社協では、地域懇談会が有意義な話し合いの場となるよう、さまざまな工夫を凝らして運営しています。

まず、漠然と地域の課題を話し合うのではなく、参加者にとって身近な「活動」をテーマとしてグループごとに設定し、その内容を全体で共有しています。一方で、今の活動に限らず、住民の暮らしぶりや困りごとに目を向けてもらえらるよう、見守り相談室からは地域の見守りに関するエピソードを伝えたり、地域包括支援センターからはその地域の相談件数や内容の傾向を伝えたりする時間も設けています。

また、話し合いの敷居が高くならないように、付箋を使ったワークではなく、地域の方が率直な思いや意見を自由に話し、それを職員がシートに書き込む形を取っています。発表は、職員ではなく、地域の方が自分の言葉で発表することを重視しています。

地域懇談会を実施した地域からは、「これはいい取り組みなのでぜひ全地域分を共有してほしい」との声があり、地域ごとの記録をまとめ、報告書をつくることとなりました。

それぞれの視点からの気づき

地域懇談会後の地域の声・反応

- 同じ地域でも他の活動については知らないことが多かったが、懇談会を通して、他の活動のことをよく知ることができ、横のつながりができた。
- 活動状況だけでなく、スタッフの思いや悩みを知ることができ、有意義だった。
- 各活動からの話にたくさん刺激を受け、次の一歩を考えるきっかけになった。
- いろいろな人と話すことで、それぞれの活動がさらに広がっていくと思うため、話し合いの場は大切だと思った。
- みんなが頑張っていることを改めて知ることができ、とても楽しい会議だったので、またしたい。

区社協職員によるふりかえり

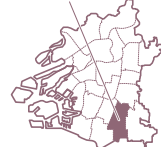
- 地域活動者同士がお互いの思いを知り、方向性を共有できたことで、今後の居場所の活性化や活動者の方の意欲向上につながる話し合いの場となった。
- 全体共有の発表の際、地域の方が自分の言葉で伝えることで、活動に込められた思いをみんなで共有することができた。
- 「これから取り組んでみたいこと」に記入したことをすでに始めている地域もあり、今後の展開に向けた後押しにつながったのではないかと。
- 他部署と協働して地域アセスメントをおこない、各部署の視点を交えることで、地域への理解を深めることができた。
- 地域の方の「懇談会に参加してよかった。またしてほしい」などの感想から、職員も達成感を感じ、結束力が高まった。

令和6年度は、7地域での実施が予定されています。

次月号では、実際に1地域で取り組まれた様子について掲載予定です。

地域懇談会で地域活動の現状・魅力を共有し、これからを考える

東住吉区



東住吉区の地域懇談会について、令和6年8月号（2・3面）で概要を紹介しましたが、今号では、区の中央部、長居公園の東側に位置する鷹合地域で実際に実施した様子を紹介します。

地域役員・活動者が一堂に集まって開催

8月2日午後2時～4時、鷹合西会館に、各地域団体の会長や民生委員・児童委員、地域福祉サポーター、食事サービス・ふれあい喫茶等の活動者、同地域を担当する中野地域包括支援センター、区社協職員が集まりました。

この取組みは、地域住民と福祉専門職が顔の見える関係をつくり、話し合いの場を持つことで、地域の現状・ニーズから今後の活動を一緒に考える機会として、区内各地域で順次実施しています。冒頭、鷹合地区社協会長の房本好治さんから「本日は鷹合の地域活動について話し合い、場の活性化とともに、みなさんのさらなるご活躍にもつながればいいな」と思っているの、自由な意見を出してほしい」とあいさつがあり、開始しました。

地域の強みや特徴を把握

グループワークに先立ち、

区社協職員から見た鷹合地域の強み（素敵なところ）・特徴【地域アセスメント内容】

- 遠くまで外出が難しい方も、鷹合会館と鷹合西会館という2つの拠点があるので、より身近な場所で活動に参加することができる。
- 新たな活動者や次世代の担い手発掘のためにボランティア募集をおこなうなど、地域の中で活動者の輪・見守りの輪を広げている。
- 親子サロンやこどもの居場所では、幅広い世代の活動者が関わっており、地域全体で交流の場を盛りあげている。
- 居場所では、活動者の得意なことを活かしたり、新しくボッチャやパフォーマンスボランティアの依頼など、多様なプログラムを取り入れ、参加者が楽しめるよう工夫している。
- 活動者は参加者への気遣いや心配りを大事にしており、居心地よく安心できる居場所づくりを心がけている。また、参加者同士がコミュニケーションをとり、交流につながることを大切にしている。

区社協職員から地域懇談会の目的、小地域福祉活動の歴史、居場所・集いの場の重要性やボランティアの役割、区社協から気になる方を居場所につないだ

事例などを報告しました。また、区社協内の事前打合せでまとめた鷹合地域の強み（素敵なところ）や特徴等を地域担当職員から発表しました。

その後、2グループに分かれ、食事サービスやふれあい喫茶、親子サロン、虹の会（健康講座・歌・体操等）、ふれあいクラブ（折り紙・映画会・百歳体操）等を

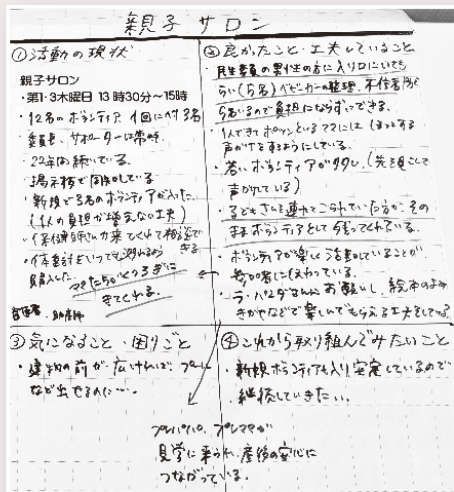
テーマに、それぞれの活動について①活動の現状②良かったこと・工夫していること③気になること・困りごと④これから取り組んでみたいことを話し合いました。

進行・書記は区社協職員が担い、全体共有での発表は地域の活動者がおこないました。

鷹合地域 ふれあい喫茶（当日の記録に基づき整理）

①活動の現状	②良かったこと・工夫していること
● 第4水曜日 13時～15時開催 ● 女性部で運営している。 ● 女性部一人ひとりが声かけし、新規ボランティアが12名ほど増えた。 ● メニューが豊富で、夏は手作りの抹茶プリン・ごまプリン・ミックスジュースを提供している。 ● 前日から仕込むぜんざいが1年を通して人気である。	● 新規ボランティアが増えたので、活動者も喫茶の場も活気づいている。 ● 60～70歳代の活動者が活躍できる場になっている。 ● カウンター式の席を設け、一人で来ても気兼ねなく座れる席を用意している。 ● 活動者が楽しく活動することを大切にしている。喫茶の良い雰囲気につながっている。 ● 学校の休み期間には活動者の娘が孫を連れて遊びにくる。3世代が集まってこの場を盛り上げてくれている。 ● 5回参加すると次の1品が無料となるお楽しみ券を作り、また来なくなる工夫をしている。
③気になること・困りごと	④これから取り組んでみたいこと
● もっとたくさんの方に来てもらえたらと思う。 ● 新規ボランティアが慣れるまでは、バタバタすると思う。	● 40歳代の若いボランティアを増やして次世代につなぎつつ、今の60～70歳代の活動者には細く長く楽しみながら活動を続けてほしい。 ● 親子サロン参加者に周知し、若い世代の方々にも気軽に参加してもらいたい。 ● 手品や楽器演奏などを取り入れ、喫茶に来る楽しみを増やして参加者に喜んでほしい。

■ 地域懇談会で話し合われた内容の一例



活発にいろいろな
意見が出ました



◀地域活動者の
皆さんから
発表



▲各パートそれぞれの区社協職員から説明

活動者の熱い思い
から今後の発展へ

最後は、地域懇談会のまとめとして地区民生委員長の南照美さんが「すごく盛り上がり、想像していたよりも楽しい時間であつという間だった。皆さん一人ひとりが自分の意見を言ってくれる機会となり、実施してよかった。これまで苦労もあつたかと思うが、今も活動を続けてきているのは皆さんのがんばりのおかげ。これからも皆さんとともに、鷹合地域をより活気あ

ふれるまちにしていきたい」とメッセージを送りました。
また、房本さんからは「地域懇談会を実施したことで、自分が参加している食事サービスのほかにも、知らなかった活動を



▲地区民生委員長の南さん

地域懇談会のポイント

地域活動の良いところを再確認し、自分たちの地域の強みや特徴を知る

- 小地域福祉活動の成り立ちや目的を伝えたり、居場所・集いの場があったからこそできたつながりの実例を紹介することで、活動の意義や重要性を確認する
- 活動に関わるボランティアの存在の大切さ（声かけ、プログラム、雰囲気づくり）を伝え、やりがいやモチベーションの維持・向上につなげる
- 区社協から見た地域の強みや特徴を伝えることで、自分たちの地域の魅力や取り組みの必要性を再認識する機会をつくる

さまざまな活動について一緒に話し合うことで、活動の発展につながる

- 活動や団体の垣根を越えて話し合うことで、横のつながりを強化し、連携しやすい関係をつくることできる
- 「こんなことができたらいいな」を言語化することで、次の一歩を踏み出すきっかけや活動の活性化、更なる発展につながる
- 地域活動者同士が話し合うことで、知らなかった活動を知る機会となり、良いところを互いの活動に活かすことができる
- それぞれの活動を知り、他の活動の場を周知するなど協力し合うことで、地域全体の場の活性化につながる

知る機会となり、今後顔を出してみようと思った。地域活動の良いところ、課題について改めて把握できたので、今日出た意見を今後につなげていきたい」と語りました。
今回の取組みをふりかえつ



▲地区社協会長の房本さん

て、区社協の岡村綾花第1層生活支援コーディネーターは「どの地域も前向きな意見が多く、熱い思いを改めて感じています。活動されている方の思いを大事にしながら、高齢者の集いの場のさらなる活性化に向けて、地域と一緒に取り組んでいきたい」と話しました。
続けて、柴田亜美地域支援担当主事は「他部署と連携することで、広がりのある内容となった。今後も地域の発展につながる話し合いの場づくりを支援していきたい」と話しました。



令和7（2025）年3月発行

令和5・6年度 地域懇談会報告書

編集・発行 社会福祉法人 大阪市東住吉区社会福祉協議会
〒546-0031 大阪市東住吉区田辺2丁目10-18
さわやかセンター内
電 話 06-6622-6611
FAX 06-6622-8973
H P <https://sawayaka-c.ne.jp/>



